

参加者資料

令和6年度 総 会

日 時：令和6年5月27日（月） 14：00 ～ 16：00

会 場：東京都 アルカディア市ヶ谷(私学会館)



一般社団法人

日本看護学校協議会

Japan Nursing School Association

目 次

一般社団法人日本看護学校協議会がめざすもの……………	1
令和6年度総会プログラム……………	2
第1号議案 令和5年度事業報告……………	3~30
第2号議案 令和5年度会計決算及び監査報告……………	31~39
第3号議案 令和6年度事業計画（案）……………	40~52
第4号議案 令和6年度会計予算（案）……………	53~56

一般社団法人日本看護学校協議会がめざすもの

目 的 (定款第3条)

本会は、看護師等養成施設の発展向上に関する事業を行い、わが国の保健・医療・福祉の発展と安全に寄与することを目的とする。

事 業 (定款第4条)

本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 看護師等養成施設の管理運営及び施設の改善向上に関する調査研究、及び看護師等養成施設に対する助言・指導
- (2) 看護師等養成施設の実態についての調査研究
- (3) 看護師等養成施設の教育についての調査研究、及び看護師等養成施設に対する助言・指導
- (4) 看護師等養成施設に所属する教職員を対象とする学会、及び研究会等に対する支援
- (5) 正会員の行う事業に関して政府その他関係機関並びに団体との連絡協議
- (6) 機関誌の発行及び広報活動
- (7) 看護師等養成施設に対する研究奨励
- (8) 看護職教育の場における安全対策に関する調査研究、及び普及・啓発
- (9) その他、前各項に附帯関連する一切の事業

令和6年度 一般社団法人日本看護学校協議会 総会 プログラム

オリエンテーション

1. 開 会

1) 主催者挨拶 一般社団法人日本看護学校協議会 会 長 水方 智子

2. 議 事

1) 議長選任

2) 議事録署名人選任

3) 議 事

第1号議案 令和5年度事業報告

第2号議案 令和5年度会計決算及び監査報告

第3号議案 令和6年度事業計画 (案)

第4号議案 令和6年度会計予算 (案)

3. 閉 会

別添資料 1. 定款
2. 会費規程

第1号議案 令和5年度 事業報告

○事業方針

令和4年度からの新中期目標を以下の通りに示す。

1. 看護職養成施設の役割の拡大を図り、地域とともにある学校づくりを推進する。
2. 看護教員の質向上、確保・定着に向け、看護教員の継続教育システムをより充実させる。
3. 当協議会の活動を広報し、組織率をあげる。
4. 会員校のニーズを把握しつつ、これからの社会が求める看護職のあり方について看護基礎教育を担う団体として提言を行う。

令和5年度重点事業方針を以下の通り提案する。

1. 看護職養成施設の役割の拡大を図り、地域とともにある学校づくりを定着させる。
令和4年（看護師2年課程は令和5年）入学生から導入される第5次指定規則改定により、「地域・在宅看護論」が新設され臨地実習の場も緩和された。地域とともにある学校づくりを定着するために、優れた実践をしている学校の取り組み紹介をするとともに、学校自己評価・自己点検を発展させた形で地域毎の「学校間ピアレビュー」を継続する。また、各学校の特色ある取り組みを発表できる仕組みを作ることで、看護師等養成所全体のモチベーションアップをはかる。
2. 看護教員の確保・定着・質向上に向け、看護教員の継続教育のシステムをより充実させる。
看護教員の継続教育システムをより充実させるために、中堅期の専任教員がやりがいをもって活躍することを支援する「中堅教員のための講習会」を開始する。これにより、Step1：専任教員養成講習会（環太平洋大学との連携）、Step2 新任期教員対象「授業づくり講習会（仮）」、Step3：中堅期教員対象「スキルアップ講習会（仮）」、Step4：成熟期教員対象「教務主任養成講習会」と、看護教員がラダーに沿ってステップアップ出来るしくみを構築する。また、令和5・6年度の地域医療基盤開発推進研究事業「看護教員の継続教育に対するニーズ把握のための研究」で看護教員の継続教育内容を検討し、R5年度看護職員特別対策事業「看護師等養成所におけるハラスメント対応事例収集事業」では看護教育の質の向上をはかる。さらに、看護職員が看護学校で看護基礎教育を体験出来る「看護教員インターンシップ制度（1日看護教員体験）により看護教員の魅力を伝え、看護教員確保につなげる。
3. 当協議会の活動を広報し、組織率をあげる。
令和5年度の会員は448校であり、組織率50%には届いていない。18歳人口の減少に伴い今後も看護師等養成所数が減少する可能性がある。会員校のニーズに応じた研修会や講習会等を実施するとともに、更新したホームページやリーフレット、動画などを積極的に活用し、研修会などのブロック活動を中心として非会員校にも加入を呼びかける。
4. 会員校のニーズを把握しつつ、これからの社会が求める看護職のあり方について、看護基礎教育を担う団体として提言を行う。
研修会や情報交換会等で会員校からのニーズを把握し、その要望や意見を関係団体に提案する。また、厚生労働省など国の事業に協力するとともに、日本医師会・日本看護協会等とも連携して事業をすすめる中で、看護基礎教育を担う実務者の団体として、看護師等養成所の管理運営及び教育等に関する調査研究を行う。その結果を提言し公表することで看護師等養成所の発展向上に寄与する。

○ 令和5年度 具体的活動

	具体的活動
<p>1. 地域とともにある学校づくりの推進</p>	<p>1) 会員校のカリキュラム編成の相談に応じ必要な支援 ・改定カリキュラム運用実施への支援</p> <p>2) 学校自己点検・自己評価の実施率向上を目指した支援 ・都道府県毎の「学校間ピアレビューを推進。2年目のモデル地区として千葉県看護学校協議会に委託。</p> <p>3) 各学校の取り組み紹介 ・「私の学校自慢」を募集し、学会で表彰を実施し、ホームページにも公開。</p> <p>4) 研究活動の推進 ・第35回（一社）日本看護学校協議会学会を開催（茨城県） ・研究活動に対する助成を実施</p> <p>5) 教育課程毎の課題についての検討 ○技術教育教材開発・各ブロック研修会の運営 ○部会の運営（統合カリキュラム、准看護師課程）</p> <p>6) 学校経営・管理に関する必要な支援 ・必要に応じて情報を収集・分析し、会員校へ発信 ・相談に応じて支援</p>
<p>2. 看護教員の確保・定着・質向上に向けた看護教員の継続教育システムの充実</p>	<p>1) 看護教員インターンシップ（1日看護教員体験事業）の開始 ・看護教員に興味のある看護職を募り、近くの学校で体験出来るしくみを作る</p> <p>2) 環太平洋大学との提携による専任教員養成を継続支援</p> <p>3) 新人期教員対象の「授業づくり」研修の継続 ・「教育課程編成」「現代学生の理解」を加え、オンラインで夏に5日間実施</p> <p>4) 中堅期看護教員のスキルアップ研修会の開始 ・「学校経営に関心を持ち、自らが視野を広げて役割を理解し、組織力向上に貢献できる人材育成」を目的に、4月～2月までの間で全5日間をオンラインと対面を組み合わせながら実施</p> <p>5) 教務主任養成講習会の継続実施 ・「横浜実践看護専門学校」に東京会場を変更 ・指定規則改正に伴いeラーニング教材の段階的更新へ ・令和5年度冬期から、東京と大阪（アンピールホテル大阪）の2カ所開催へ</p> <p>6) 令和5・6年度の地域医療基盤開発推進研究事業 ・「看護教員の継続教育に対するニーズ把握のための研究」では、看護師等養成所の看護教員を対象とした研修の受講状況や自己研鑽に関する意識、継続教育に関するニーズ等についての実態把握調査を行うとともに、一般社団法人日本看護学校協議会が素案を作成した「看護教員のラダー」（参考資料1）を基に「看護教員のクリニカルラダー」（以下、「改正ラダー」という。）を開発し、教員養成講習会や教務主任講習会の実施団体の意見も踏まえた上で、看護教員の経験や段階に応じた継続教育の充実と推進策への示唆を得る。</p> <p>7) 令和5年度看護職員特別対策事業 ・「看護師等養成所におけるハラスメント対応事例収集事業」では、看護師等養成所におけるハラスメント対応事例を収集し、都道府県の看護行政担当者の相談対応や養成所における対応等への一助とすることを目的とする。</p>

3. 組織率の向上	1) 新ホームページオープン&リーフレットの更新 ・4月から新ホームページがオープンし、協議会のロゴも作成 ・今後は、紙ではなくホームページからの情報発信に切り替える。 2) 各ブロック活動の充実 ・ブロック毎の研修会での広報 ・非会員校へのアプローチを行い当協議会の組織率をあげる。 ・集約した意見・要望を全国都道府県代表者会へつなぐ
4. 看護基礎教育を担う団体としての提言	1) 学校長会、副学校長・教務主任会、事務担当者会を実施 2) 全国都道府県代表者会を実施 3) ブロック県代表者会議を実施 4) 関係省庁・関係団体との協力体制強化 ・検討会等への委員の派遣 ・関係省庁への要望・陳情活動 ・関係団体との協力体制の強化 等 5) 国の施策に貢献 ・国家試験・資格試験問題の質担保に向けた研修を実施（国家試験問題プール制への貢献） 6) 看護師等養成所の学校運営に関する必要な調査を適宜実施 ・令和5年4月に令和4年（2022年）度の「管理・運営に関する実態調査」を実施。6月に速報値の報告・秋に冊子化へと時期を変更。 7) （一社）日本看護学校協議会共済会との連携継続 ・教育現場のニーズを把握し、共済会の商品開発に協力する。 8) 賛助会員との連携継続 ・雑誌投稿、商品開発など 9) 対外的に積極的な情報発信 ・必要時、関係省庁への要望・陳情等に関するプレスリリースを、厚生労働記者会及び厚生日比谷クラブに向け発信 10) 厚生労働省の看護課へ研修生への派遣

令和5年度 事業総括

1. 地域とともにある学校づくりの定着

- 1) 会員校のカリキュラム編成の相談に応じ必要な支援
令和5年は看護師2年課程第5次指定規則改定の実施年となった。実施にあたり事務局に直接寄せられた相談等はなく、直接的な運用支援の要請はなかった。
- 2) 学校自己点検・自己評価の実施率向上を目指した支援
都道府県毎の「学校間ピアレビュー」を推進するための2年目のモデル地区として千葉県看護学校協議会に委託を行った。千葉県はアンケート調査を行い次年度引き続き取り組みをしていく予定である。
- 3) 各学校の取り組み紹介
今年度2回目となった「私の学校自慢」の応募数は昨年を大幅に上回り37演題（昨年は25課程今年度複数応募校5校）で優秀賞3演題奨励賞10演題を学会で表彰しホームページにも公開した。
- 4) 研究活動の推進
第35回日本看護学校協議会学会を茨城県で開催した。参加者数は年々会場参加者が増加している。まさに今の地域包括ケアのなかで看護に求められているものは何かを学ぶ有意義な学会であった。研究等奨励事業では、3件申請があり承認された。
- 5) 教育課程毎の課題についての検討
統合カリキュラム教育実施施設部会は、玉野総合医療専門学校が当番校でオンラインにて開催した。講演と「地域・在宅看護論と公衆衛生看護学のすみ分けと統合について」グループワークを実施した。准看護師養成教育実施施設部会は、郡山にて対面で「地域に根差す人材育成」をテーマで講演を実施した。
- 6) 学校経営・管理に関する必要な支援
看護師養成所の管理・運営に関する実態調査を今年度から4月に変更して実施した。学生募集数の激減による学校運営の困難さが浮き彫りになった。ハラスメント等に関する看護学生からの電話による直接的な相談に応じ都道府県等につなげていった。

2. 看護教員の確保・定着・質向上に向けた看護教員の継続教育システムの充実

- 1) 看護教員インターンシップ（1日看護教員体験事業）の開始
令和5年度から看護教員に興味のある看護職を募り、近くの学校で体験できる仕組みである。申込総数は13名（うち3名キャンセル）、看護職経験年数は5年6か月～24年まで幅広い。8校の養成校で実施した。
- 2) 環太平洋大学との連携による専任教員養成を継続支援
例年と同様に講師の派遣と教育実習生の受け入れに協力・支援している。令和5年度の入学生は60名であり、当協議会会員校からは26名（60名中）である。入学者は4割ほど減っている。累計の卒業生は、645名となった。その卒業生の学士取得者（専任教員資格も取得）は590名、専任教員資格のみ取得者は55名である。

3) 新人期教員対象の「授業づくり」研修の継続

今年度から教育課程の概要講義を取り入れ、また困難を感じている場面をリフレクションし交流機会を設け、1日追加し5日間とした。研修生の満足度、達成感は高く学習効果を実感できている。一方、方法論や授業案を作り上げることに集中している印象がある。看護教育の本質（学生理解・授業の本質等）に立ち返り、「授業案作成・実施・実施したことの分析・評価・修正」という一連のプロセスを理解するためには、研修生一人一人が自分自身の関心のある授業展開を経験する必要があると考える。

4) 中堅期看護教員スキルアップ研修会の開催

学校経営に関心を持ち、自らが視野を広げて役割を理解し、組織力向上に貢献できる人材育成を目的に、約1年かけて実施したことはリーダーに必要な問題解決能力について考察でき効果的であった。途中、中間発表前に1名の辞退があったが、研修生からは「悩んでいることを共有でき、自分だけではないと力をもらった」との声が多く聞かれ研修生の満足度は高かった。また、フィールドワークの受け入れ校からも丁寧に対応していただき、研修生は「対話」の大切さや意見が尊重されるシステムづくりなど組織マネジメントの大切さについて学んでいた。

5) 教務主任養成講習会の継続実施

今年度は、横浜実践看護学校で開催し、冬季は横浜と大阪の2会場に分かれて実施した。また、看護学校経営論のeラーニングの科目は内容を新しく集録し、刷新された内容で履修した。eラーニング、対面授業共に、どの科目も概ね満足度が高い結果となった。

6) 専任教員の交流会を実施

専任教員の定着と質向上を目的として、今年度初めて実施をした。参加者167名で、アンケート結果では、98%が「モヤモヤが晴れてリフレッシュできた」「また参加したい」等の感想が多かった再開の希望があり、2月22日2回目を実施した。85名が参加しアンケートではとても有意義であったという結果であった。

7) 令和5・6年度の地域医療基盤開発推進研究事業の実施

看護教員の経験や段階に応じた継続教育の充実と推進策への示唆を得ることを目的とし、下記のように3つの班に分けて実施した。

A班は、協議会で実施している新任期・中堅期・教務主任研修の効果検討を行った。新任期と中堅期はアンケート調査を行い、その結果の分析評価を実施した。教務主任研修は修了した受講者による評価をもとに検討した。

B班は、教員の所属組織のキャリア成長支援体制の調査で、組織サーベイ診断を取り入れて調査を実施した。

C班は、協議会以外（他都道府県等）が行っているキャリア向上のための講習会の調査を行った。令和6年5月末に中間報告として調査結果を厚生労働省に提出する。

8) 令和5年度看護職員確保対策特別事業の実施

「看護師等養成所におけるハラスメント対応事例収集事業」では、厚生労働省と都道府県の看護行政担当者、法律家と協議会で会議を行った。基礎データとして教校を対象にしたアンケート調査を実施、看護師等養成所におけるハラスメント対応事例を収集しハラスメント防止に向けた冊子を作成した。

3月12日看護師等養成所と都道府県担当者を対象に研修会を実施し、参加者は982名で高い関心が伺え、今後継続的な研修を計画していく必要があると考える。

加えて、「看護師等養成所における DX 促進にむけた実態調査」では、現状の課題や時代の要請に対応する看護師等養成所における看護教育の学習環境整備（看護教育現場の DX）に向けた対応を検討するための基礎資料となる実態調査を実施した。

3. 組織率の向上

1) 新ホームページオープン&リーフレットの更新

5月から新ホームページがオープンし協議会のロゴも作成した。いままで「ニュース」発行をしていたものを、全面的にホームページ上での情報発信に切り替えていった。タイムリーな情報掲載のしやすさ、画面の見やすさ等について専門家を交えて引き続き検討をしていく。

2) 各ブロック活動の充実

7ブロックともに研修会とブロック代表者会議を定期的で開催した。災害時のブロック内連携の仕組みを検討し、連携を強める活動にも踏み出しているブロックもある。今後の活動を発展させていく一助になった。

3) 研修会や講習会などの非会員校へご案内

ブロック毎の研修会情報やその結果をホームページに掲載し、広報活動を行っていった。今年度は当協議会の組織率をあげるべく、ブロック研修会毎に会長・副会長が協議会の活動案内と入会をお願いをしていった。さらに、研修会にはブロック代表者を通じて非会員校にも案内し、協議会の活動実態を広く広報していった。直接的な会員校増加にはつながっていないが、引き続き研修会への案内とフォローアップ活動を実施していく。

4. 看護基礎教育を担う 団体としての提言

1) 「学校長会」「副学校長・教務主任会」「事務担当者会」を実施

学校長会を6月3日対面で実施、実践報告から示唆が得られたと参加者からの評価を受けている。副学校長・教務主任会を12月15日実施、「川嶋みどり先生講演」への肯定的な反響が大きく効果的な内容であったと評価する。事務担当者会を10月4日実施、事務担当者間での連携に有用であるとの参加者評が認められる。

2) 全国都道府県代表者会

11月17日実施。ICT・DXテーマでの一貫した講話・報告がされた。テーマである「持続可能な看護基礎教育環境の整備」に関してDXを実現するための基本的な学校運営に関して都道府県との連携に関する情報提供がされた。

3) ブロック県代表者会議

全7各ブロックにおいて、各都道府県における課題・ニーズに即した研修会の実施が行われた。また、ブロック代表者会議においては活動報告・情報交換が行われた。

4) 関係省庁・関係団体との協力体制強化

(1) 検討会等への委員の派遣

会長、副会長、常任理事等の9件の派遣があった。(29ページ参照)

(2) 関係省庁への要望・陳情活動 (29ページ参照)

3件の要望書を提出。「令和6年1月25日付：文部科学省高等教育局 局長宛に高等教育の修学支援制度の機関要件のうち、コロナ禍により収支差額が悪化した医療機関等への緊急措置の実施及び医療機関の特性に応じた運用の改善についての要望書」に関しては、文科省より全国の都道府県に対し「コロナ禍に伴う経常収支の悪化については、機関要件の確認取消しを猶予しうる」という内容での回答を得た。

5) 国の施策に貢献

国家試験・資格試験問題の質担保に向けた研修を実施（国家試験問題プール制への貢献）
教育評価研修会を10月25日に実施。池西静江氏の講義後、グループワークにて受講生の作問をブラッシュアップし厚生労働省へ9題応募した。

採点除外問題検討会

令和6年2月16日（金）厚生労働省へ意見書を提出。①保健師国家試験：会員校14校中14校より意見があり1問提出。②助産師国家試験：会員校23校中8校より意見があり、1問提出。③看護師国家試験：会員校448校中304校より意見があり、6問提出。他試験会場に関する意見書を提出した。

6) 看護師等養成所の学校運営に関する必要な調査を適宜実施

令和5年4月に令和4年(2022年)度の「管理・運営に関する実態調査」を実施。6月に速報値を報告・秋に冊子化へと時期を変更。令和5年10月、会員校へ冊子配布した。

7) (一社)日本看護学校協議会共済会との連携継続

各事業の運営に協力をいただき、研修会等では共済会の広報の場を提供し、協力を深めた。

8) 賛助会員との連携継続

各事業の運営に協力を頂き、研修会等では共済会の広報の場を提供し、協力を深めた。

9) 厚生労働省の看護課へ研修生の派遣

厚生労働省看護課への研修生1名を派遣した。

○ 事業内容

1. 学術・教育

1) 教育研修会活動

令和5年度 学術・教育活動部会

【ねらい】

一般社団法人日本看護学校協議会の事業の中核である「看護教育の質向上に向けての継続的・計画的な活動の強化」のうち、「看護教員の教育実践能力向上に向けた活動」の具体的な実施を担う役割がある。

令和5年度は、2年課程の新カリキュラム改正年度に当たる。また、COVID-19長期化の中で看護学生の学びをいかに保証するかが継続して問われており、看護教員にはますます教育実践力が求められている。

以上のことから、令和5年度も継続して【「看護教員の教育実践能力向上に向けた活動」に関する具体的な実践を担う】を活動目標とする。

なお、教育委員会、ブロック活動委員会、国家試験・資格試験対策委員会との協働・協力体制は、コロナ禍においてより強化する必要がある。また学校長会、副学校長・教務主任会の企画・運営に関しても、会長・副会長と協議しながら各委員会としての役割を担うものとする。

【具体的活動内容】

1. 年3回の教育研修会の企画・運営
 - 1) 新人看護教員及び看護養成講習会未受講者を対象とした教育研修会
 - 2) 国家試験・資格試験対策委員会が企画・運営する教育研修会
 - 3) 教育実践力向上のためのICT教育研修会
2. 中堅看護教員スキルアップ研修会の企画・運営
3. 学校長会および副学校長・教務主任会等の企画・運営

(1) 第1回教育研修会（新任期看護教員研修会）

開催日 令和5年8月14日（月）～ 8月18日（金）

参加者 84校112名

方法 オンライン

対象者 新人看護教員（教員経験3年未満）・看護教員養成講習会未受講者

内容 8月14日（月）

1. 講演：看護や医療の動向、教育課程の概要 講師：水方 智子(会長)
2. リフレクションのグループワーク
 - ・*学生指導において困難を感じたエピソードのリフレクション
 - ① グループワーク
 - ② まとめ

8月15日（火）

1. 講演：「学習指導案のつくり方」
講師：池西 静江 氏（鹿児島医療技術専門学校 看護学科顧問）
2. 基調講演：「アクティブ・ラーニング時代の看護学校の授業づくり」
講師：新井 英靖 氏（茨城大学教育学部 教授）
3. 授業案づくり（学生観、教材観、指導観の検討）

8月16日(水)、8月17日(木)

終日グループワーク

8月18日(金)

発表、模擬授業、新井英靖先生による講評・まとめ

(2) 第2回教育研修会(教育評価研修会)

開催日 令和5年10月25日(水)

参加者 45校50名

方法 オンライン

- 内容
1. 講演「教育評価～臨床判断能力を問う問題作成～」
講師 池西 静江 氏(鹿児島医療技術専門学校 看護学科顧問)
 2. グループワーク
 3. 発表及び講師より講評

*研修会后、問題を国家試験・資格試験問題対策委員会で更にブラッシュアップし、厚生労働省の試験問題の公募に協力する。

(3) 第3回教育研修会(ICT教育研修会)

開催日 令和5年12月15日(金)

参加者 117校140名

方法 オンライン

- 内容
1. 講演「デジタルによる変革から、変革のデジタル活用」
講師 美代 賢吾 氏
(国立国際医療研究センター/医療情報基盤センターセンター長)
 2. アドバイザーの講演
「ICT導入の意義と立ち上げからの困難点」(情報リテラシーも含む)
砂川市立病院附属看護専門学校 主任専任教員 野田 孝子 氏
「ICT教育導入の取り組みと課題」
学校法人おもと会沖縄看護専門学校 高良 勝俊 氏
 3. グループワーク「DX推進状況に合わせたグループワーク」
 4. まとめ

(4) 中堅看護教員スキルアップ研修会

日程：講義及びグループワーク	令和5年4月29日(土)、5月6日(土)、5月7日(日)
自校での取り組み	令和5年5月～8月(自校での取り組み)
自校での取り組みの報告会	令和5年9月16日(土)(中間報告会)
他行でのフィールドワーク	令和5年9月～令和6年2月(1～3日間)
まとめ・グループ発表・講評	令和6年2月12日(月)(対面)

参加者：41校46名

方法：オンライン：令和5年4月29日(土)、5月6日(土)、5月7日(日)、9月16日(土)
会場：令和6年2月12日(月)アルカディア市ヶ谷(私学会館)

内容：4月29日(土)

1. 講演：中堅教員に必要な能力講義 看護や医療の動向 講師：水方 智子会長
2. 講演：コーチングとティーチング～多様な学生を支援する教育的関わり
講師：カウンセリングルーム アクセプトランス 代表 白石 邦明 氏

5月6日(土)

1. 講義：看護学校におけるリーダーシップ
講師：水本 徳明（同志社女子大学教職員課程センター特任教授・京都教育大学
大学院連合教職員実践研究科 教授）
2. 演習

5月7日(日)

1. 講義：どのようなリーダーシップをとることが組織の活性化につながるか
講師：水本 徳明（同志社女子大学教職員課程センター特任教授・京都教育大学
大学院連合教職員実践研究科 教授）
2. グループワーク・発表

令和5年5月～8月

自己のリーダー行動計画実施期間 自校での取り組み

9月16日(土)

1. 中間報告会：5月の課題を踏まえて自己の実践を報告する

令和6年2月12日(月) アルカディア市ヶ谷(私学会館)

1. まとめの交流会 グループ発表
2. まとめ講義・講評
講師：水本 徳明（同志社女子大学教職員課程センター特任教授・京都教育大学
大学院連合教職員実践研究科教授）

3) 専任教員交流会

第1回開催日：令和5年7月7日(金) 会員校80校164名 非会員校2校2名

第2回開催日：令和6年2月22日(木) 会員校42校87名

4) 「看護師等養成所におけるハラスメント防止にむけて」の研修会

開催日 令和6年3月12日(火)

参加者 会員校：242校841名、非会員校：91校257名、都道府県：45都道府県72名

方法 オンライン

- 内容
1. 講演「看護師等養成所におけるハラスメント防止を考える
—教職員と学生の相互理解に向けて—」
講師 蒔田 覚 氏（蒔田法律事務所 弁護士）

2. パネルディスカッション

テーマ「学生と養成所の相互理解を深め、看護学生のより良い学習環境を考える」

司会 山田かおる（当協議会副会長）

パネリスト

蒔田 覚 氏（蒔田法律事務所 弁護士）

本田 智美 氏（滋賀県健康医療福祉部 医療政策課医療人材確保係）

田所 亮一 氏（北海道看護専門学校 校長、当協議会本事業リーダー）

5) 研究等奨励事業 令和5年10月募集、3件の応募

6) 第35回学会

開催日 令和5年8月3日(木)・4日(金)
参加者 会場参加284名 オンライン参加185名
会場 茨城県 水戸市民会館
テーマ 「共にあゆみ、共に生きる～看護の知の力で、持続可能な社会を目指す～」
学会長 鈴木 邦彦氏(学校法人志村学園 茨城北西看護専門学校 学校長)

プログラム

(1) 演題発表 口演、示説

(2) 講演 学会長講演

テーマ：「地域包括ケアシステムの構築に必要な看護師養成を目指して」

講師：学校法人志村学園理事長・茨城北西看護専門学校 校長

茨城県医師会 会長 鈴木 邦彦 氏

特別講演1

テーマ：「地域包括ケアの推進と医療提供体制の改革」

講師：厚生労働省医政局 局長 榎本 健太郎 氏

特別講演2

テーマ：「これからの看護師に必要な多職種連携教育の進め方について」

講師：千葉大学大学院 看護研究院附属専門職連携教育研究センター

センター長 酒井 郁子 氏

特別講演3

テーマ：「地域包括ケアの中で広がる看護職の役割」

講師：認定NPO 法人マギーズ東京 共同代表理事 秋山 正子 氏

特別講演4

テーマ：「リーダーシップを発揮できる人材を育てる看護基礎教育とは」

講師：常磐大学看護学部 大学院 教授 角田 直枝 氏

(3) シンポジウム テーマ「地域包括ケアシステム構築における多職種連携の重要性を考える」

座長：日本看護学校協議会 会長 水方智子氏

シンポジスト：日本医師会 常任理事 江澤 和彦 氏

日本看護協会 常任理事 田母神裕美 氏

日本看護支援専門員協会 副会長 小林 広美 氏

聖路加国際大学大学院 教授 山田 雅子 氏

(4) 市民公開講座1 テーマ「まちの人とワクワクを一緒につくるコミュニティナース」

講師：Community Nurse Company 株式会社

雲南出雲エリアマネージャー 總山 萌 氏

市民公開講座2 テーマ「看護師を目指す人へのエール」

講師：ナースマン・おたんこナース著者・看護師 小林 光江 氏

(5) ランチョンセミナー

演題：スウェーデンの歴史に学ぶ これからの高齢者ケア

座長：森田 徹 氏(ユニ・チャームメンリッケ株式会社 代表取締役社長)

講演：グスタフ・ストランデル 氏(一般社団法人国際福祉推進協会 代表理事)

演題：ICTを活用したこれからの看護学教育
座長：佐藤 尚治 氏（イムス横浜国際看護専門学校 副学校長）
講演1：野田 孝子 氏（砂川市立病院附属看護専門学校 主任専任教員）
講演2：脇田 節子 氏（南和広域医療企業団南奈良看護専門学校 教務主任）

(6) 私の学校自慢

応募 37 題(複数応募校 5 校) 優秀賞 3 校 奨励賞 10 校 感謝状 24 校

7) 研修会等

(1) 学校長会

開催日 令和5年5月31日(水)
参加者 会場参加 62校67名 オンライン参加 197校202名
会場 東京 アルカディア市ヶ谷(私学会館) オンライン併用
内容 来賓挨拶及び講話 厚生労働省医政局看護課 課長 習田 由美子 氏

協議会からの報告

- ① 令和5年度 看護師等養成所の管理・運営等に関する実態調査報告(速報値)について
- ② DX時代に対応する教育機器等の整備に向けた調査
- ③ 看護学校間ピアレビューを実施して(大阪府看護学校協議会)
- ④ 令和4年度 厚生労働省看護職員確保対策事業概要
 - ・「看護基礎教育における地域住民と連携した教育事例収集事業」
 - ・「看護教員と看護職員の人事交流等の看護職員確保に係る好事例収集事業」

講演(実践報告)

- ① 上尾市医師会上尾看護専門学校 副校長 五十嵐良子 氏
- ② 相馬看護専門学校 副校長 愛澤めぐみ 氏
- ③ 厚木看護専門学校 学校長 武藤 和恵 氏
- ④ 岸和田市医師会看護専門学校 副学校長 池田 美子 氏

協議事項

- ・会員校からの提出議題
- ・協議会からの報告事項に関する質疑応答など

(2) 事務担当者会

開催日 令和5年10月3日(火)
参加者 会場参加 40校44名 オンライン参加 99校104名
会場 東京 アルカディア市ヶ谷(私学会館) オンライン併用
内容 1. 講演 テーマ「生き残りを賭けた学校戦略」
講師 星 北斗(副会長)
2. 講演 テーマ「最近の学生の動向や受験情勢～魅力ある学校を伝える広報活動～」
講師 株式会社ナガセ 東進ハイスクール
ビジネススクール本部 大学事業部 清野 光昭 氏
3. 事務担当者交流会 グループワーク(設置主体別、テーマ別)

(3) 副学校長・教務主任会

開催日 令和5年12月14日(木)
参加者 会場参加 (会員校57校64名、賛助会員4社7名)
オンライン参加(会員校215校241名、非会員校2校2名、賛助会員1社1名)
会場 東京 アルカディア市ヶ谷(私学会館) オンライン併用

- 内 容 1. 講 話 テーマ「看護基礎教育機関への期待」
厚生労働省医政局看護課 課長補佐 初村 恵 氏
2. 協議会からの報告
- 1) 看護師等養成所における管理・運営等に関する実態調査報告 会長 水方 智子
 - 2) 看護師等養成所における DX 促進にむけた実態調査報告 副会長 戸田 悦子
3. 講 演 テーマ「新しい時代の看護を創る基礎教育の課題
－看護の優位性をよりどころに－」
講 師 川嶋 みどり 氏
4. 協議事項 ・協議会からの報告に対する質疑応答
・参加者からの協議会の活動に対してのご意見

2. 「日本看護学校協議会 教務主任養成講習会」

開催期間 令和5年4月17日(月)～令和6年1月8日(月)
受 講 者 47名(5期生)、37名(4期生)、2名(3期生)、1名(2期生)
講習方法 eラーニング及び対面授業(演習)

- 1) eラーニング 令和5年4月17日(月)～令和5年11月26日(日)

《担当講師》

- (1) 看護教育方法・評価開発 池西静江氏(鹿児島医療技術専門学校 看護学科顧問)
石東佳子氏((専)京都中央看護保健大学校 顧問)
- (2) 看護教育課程開発 平賀元美氏(名古屋学芸大学看護学部 教授)
- (3) 看護学校経営論 齊藤茂子氏(東京工科大学医療保健学部 名誉教授)
- (4) リーダー論 水本徳明氏
(同志社女子大学教職員課程センター特任教授・
京都教育大学大学院連合教職員実践研究科教授)

2) 対面授業(演習)

- (1) 看護教育方法・評価開発演習 令和5年7月18日(火)～7月28日(金) 4.5日間
- (2) 看護教育課程開発演習 令和5年7月31日(月)～8月18日(金) 13日間
(8月14日、15日は台風のためオンライン)
- (3) 看護学校経営論演習 令和5年12月18日(月)～12月22日(金) 5日間
令和6年1月5日(金)～1月8日(月) 4日間

*対面授業の会場

夏季 横浜実践看護専門学校

冬季 東京会場：横浜実践看護専門学校 大阪会場：アンピールホテル大阪

*リーダー論演習(4期生、3期生、2期生が対象)

《担当講師》

- (1) 看護教育方法・評価開発演習 池西 静江氏、石東 佳子氏(東京会場)
- (2) 看護教育課程開発演習 荒川眞知子氏、片野 裕美氏(東京会場)
- (3) 看護学校経営論演習 小笠原 幸氏(東京会場)、鳥井元純子氏(大阪会場)
- (4) リーダー論演習 雑賀美智子氏(東京会場)、渡津千代子氏(大阪会場)

*対面授業(演習)の指導協力者

- (1) 看護教育方法・評価開発演習 夏季(東京会場1名)
- (2) 看護教育課程開発演習 夏季(東京会場4名)
- (3) 看護学校経営論演習 冬季(東京会場3名、大阪会場2名)

3. ブロック活動

令和5年度ブロック活動委員会方針

【ねらい】

ブロック活動委員会は、一般社団法人日本看護学校協議会(以下、本協議会)の事業方針をふまえ、全国7ブロックにおいて看護基礎教育に対するニーズや課題をもとに研修会等を積極的に企画運営し、年々、協議会の周知度の向上にも寄与している。今後益々、教育の質向上の為に本協議会の組織拡大は必須であり、そのための各ブロックの役割は重要となってくる。今後更に全国都道府県代表者会などの機会を通して、全国の看護基礎教育機関の取り組みを共有するとともに、都道府県の看護学校協議会等との連携を図るパイプ役としての役割を継続的に果たす事とする。

以上のことから、令和5年度の活動内容は次の通りとする。

【令和5年度活動方針】

1. 各ブロックの県代表者会議を通し、看護基礎教育の課題や協議会へのニーズの集約をする。
2. 各ブロックにおける活動の充実：研修会、組織率強化策

【令和5年度具体的活動】

1. について
 - 1) 確実に検討事項を抽出し、全国都道府県代表者会で協議するプロセスを図る。
2. について
 - 1) ホームページ委員会と共同でリーフレットの作成
 - 2) 協議会加盟校によるメリットの訴求策の構築
 - 3) 非加盟校からの研修等参加者の追跡フォロー施策の構築
 - 4) 各ブロック委員の意識付強化策の構築：加盟校目標をもとに事務局発信情報の徹底

<各ブロックの研修会等>

ブロック名	ブロック研修会		ブロック代表者会議
北海道	開催日 内 容	令和5年11月11日予定、講師の健康上の理由により中止 対面講義形式 テーマ：パフォーマンス評価を知り、ルーブリックの観点をつくる 講 師：細尾 萌子 先生 (立命館大学文学部人間研究学域 准教授)	1) 令和5年10月20日 2) 札幌国際ビル 3) 内容：令和5年度活動報告 令和6年度活動計画 令和5年度決算報告
東 北	開催日 方 法 参加者 内 容	令和5年8月5日(土) ハイブリット形式 135名参加 ①対面：27名 ②オンライン：108名 テーマ：「臨床判断能力を育む授業づくり」 講 師：office Kyo-Shien 代表 池西 静江先生	令和5年8月5日(土)対面 東北6県の代表者が揃い、「今後の東北ブロック活動のあり方」について、日本看護学校協議会副会長星先生より講話を頂く。各県の取り組み紹介の資料をもとに情報共有及び意見交換を行う。

ブロック名	ブロック研修会		ブロック代表者会議
東北	開催日 方法 内容	令和6年3月25日(月) ハイブリット形式 ※3団体共催開催 (東北ブロック、福島県看護学校協議会、福島県医療福祉関連教育施設協議会) ①特別講演テーマ 「心理的安全性の高い組織を目指して」 ②実践報告テーマ 「教員による教員のための臨床研修」 テーマ「ICT教育ロイロノート」 テーマ「多職種連携教育」 ③学生発表会テーマ「私たちの学校自慢」	令和5年10月23日(月) WEB 東北6県の代表者 第2回東北ブロック情報交換会 ・県代表者の役割 ・東北ブロック連携システム ・ICT教育の紹介 ・多職種連携教育の紹介 ・今年度の第2回研修会の企画
関東甲信越	開催日 会場 内容	令和5年12月26日(火) 獨協医科大学附属看護専門学校三郷校 オンライン併用 テーマ:「今の社会を生きている若者を理解する」 講師:菅間正道先生(自由の森学園高等学校 校長)	第1回:6月9日(金) 第2回:8月29日(火) 第3回:12月26日(火) 第4回:2月29日(木)
東海	開催日 方法 内容	令和5年9月9日(土)9:30~12:30 オンライン研修 メイン会場校 学校法人浅ノ川学園 金沢看護専門学校 ※受講者は、自校からオンラインで受講 テーマ:「臨床判断能力の育成Part3ー実践報告を通して学生の学びをさらに豊かにー」 講師:office Kyo-Shien 代表 池西 静江先生	第1回:令和5年6月19日 第2回:令和5年7月25日 第3回:令和5年8月22日 第4回:令和5年10月17日 第5回:令和5年12月18日
近畿	名称 開催日 方法 参加者 内容	ブロック研修会 令和5年10月19日(木)14:00~16:00 事前にオンデマンドにて講演を視聴後、アンピールホテル大阪にて対面で質疑応答 テーマ:指導困難な学生の指導方法 オンデマンド視聴:316名(54校) 講師:茨城大学教授 新井 英靖 先生	第1回:令和5年6月8日(木) 14:00~17:00 アンピールホテル大阪 第2回:令和5年10月19日(木) 16:00~18:00 オンライン 第3回:令和6年2月8日(木) 14:00~16:00 アンピールホテル大阪
	名称 開催日 方法 内容	ブロック交流会 令和5年8月30日(水)14:00~16:00 アンピールホテル大阪にて対面で開催 各自検討したい事項を持ち寄り領域別・役職別に分かれてグループワークをする。	

中国・四国	開催日 方法 内容	令和5年7月29日(土) 対面、オンライン テーマ: 臨床判断能力開発のための思考発話 講師: 池田 葉子先生 (聖路加国際病院 CNE)	令和6年3月4日(月)に オンラインで実施
九州・沖縄	開催日 会場 内容	令和5年9月23日(土) 福岡商工会議所 テーマ: 「臨床判断能力の育成を学ぶ」 講師: 三浦友理子氏 (聖路加国際大学大学院 准教授)	第1回 6月9日(金) ①ブロック会議年間計画について ②令和5年度研修会について ③情報交換 第2回 6月30日(金) ①平成5年度研修会について ②情報交換 第3回 12月19日(火) ①令和5年度研修会アンケート 結果について ②令和6年度研修会テーマ(案) について ③情報交換 第4回 令和6年3月5日(火) ①令和5年度活動報告 ②令和6年度活動計画 ③令和6年度研修会について ④情報交換

4. 全国都道府県代表者会

開催日 令和5年11月17日(金)

会場 東京 アルカディア市ヶ谷(私学会館)

参加者 ブロック県代表者

- 内容
1. 講話「都道府県行政を巻き込んだ取り組み」日本看護学校協議会 副会長 星 北斗
 2. 講話 テーマ「医療DX推進と看護基礎教育機関への期待」
講師 厚生労働省医政局看護課 課長補佐 初村 恵氏
 3. 協議会からの報告「看護師養成所におけるDX促進に向けた実態調査(速報値)」
一般社団法人日本看護学校協議会 会長 水方 智子
 4. 実践報告
 - 1) 「厚生労働省補助金活用の実際とICT活用の実際」
砂川市立病院附属看護専門学校 副学校長 戸田 悦子氏
 - 2) 「文部科学省補助金活用の実際とICT活用の実際」
四国中央医療福祉総合学院 学生部長兼看護学科学科長 今田 良子氏
 5. グループワーク(情報交換)

5. 会 議

1) 総 会

開催日	令和5年5月30日(火)
会 場	東京 アルカディア市ヶ谷(私学会館)
内 容	第1号議案 令和4年度 事業報告 第2号議案 令和4年度 会計決算及び監査報告 第3号議案 令和5年度 事業計画(案) 第4号議案 令和5年度 会計予算(案) 第5号議案 役員改選(案)

※ 総会終了後、アルカディア市ヶ谷(私学会館)において懇親会を実施

2) 理事会

回数	開催日	会場・方法	備 考
1	4月20日(木)	当協議会事務局・オンライン	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度 事業報告、会計決算及び監査報告について 令和5年度事業計画(案)、会計予算(案)について
2	5月30日(火)	アルカディア市ヶ谷(私学会館)・オンライン	<ul style="list-style-type: none"> 令和5・6年度会長、副会長、常任理事の選任
3	7月14日(金)	当協議会事務局・オンライン	<ul style="list-style-type: none"> 総会、学校長会のまとめ 会務分担等について 今年度の年間計画の確認
4	11月17日(金)	アルカディア市ヶ谷(私学会館)・オンライン	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度事業及び会計中間報告 各委員会、調査進捗状況 次年度の事業計画について

3) 常任理事会

回数	開催日	会場・方法	備 考
1	令和6年 3月21日(木)	当協議会事務局・オンライン	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度事業・決算中間報告 令和6年度の事業計画(案)

4) 一般社団法人日本看護学校協議会あり方検討会（常設）

回数	開催日	会場・方法	内 容
1	4月10日（月）	当協議会事務局・オンライン	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和4年度看護職員確保対策特別事業の報告 2. 要望書などの提出状況 3. 中堅教員スキルアップ研修会、実態調査の進捗状況 4. 令和5年度の方針（案） 5. ブロック活動について 6. 交流会について 7. 行政委員会について
2	5月24日（水）	当協議会事務局・オンライン	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和5年度看護職員確保対策特別事業 2. 「中堅看護教員スキルアップ研修会」の途中報告 3. 組織率UP施策について 4. 令和5年度総会について 5. 新理事及び役職（案） 6. 専任教員交流会について 7. 学校長会内での協議会からの報告、アンケート内容 8. DX時代に対応する教育機器等の整備に向けた調査の報告 9. 能登地方、千葉県南部の地震について 10. 国家試験対策委員会について 11. あり方検討会のメンバーについて
3	6月19日（月）	当協議会事務局・オンライン	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和4年度厚生労働省看護職員確保対策特別事業の報告 2. 学校長会のアンケート結果 3. 災害の報告 4. 第35回学会進捗状況について 5. 専任教員交流会について 6. 新任期教員研修について 7. 厚労省調査研究等の進捗状況 8. 管理・運営に関する実態調査進捗状況 9. 令和5年度 看護・コメディカル委員意見交換会参加報告 10. 看護師等確保基本指針検討部会について 11. 令和5年度事業及び会務分担について 12. 第3回理事会に向けて

4	7月10日(月)	当協議会事務局・オンライン	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師等確保基本指針検討部会について 2. 専任教員交流会について 3. 第1回教育研修会(新任期看護教員研修会)について 4. 厚労省調査委託事業の進捗状況 5. 第35回学会進捗状況について 6. 第3回理事会について 7. 第35回学会前夜祭について 8. 日本看護学校協議会の10年後のあり方を見据えて 9. 利益相反規定と委員会規定
5	9月7日(木)	当協議会事務局・オンライン	<p>特別企画「減災ナース」の育成について 小原 真理子先生</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師等確保基本方針の改定について 2. 教育委員会の新任期看護教員研修の評価結果について 3. 教務主任養成講習会の実施状況について 4. 厚生労働省調査研究等の進捗状況について 5. 事務担当者会について 6. 教育評価研修会について 7. 2024年度学会進捗状況及び2025年度学会担当校について 8. 広報委員会からの報告 9. 台風被害状況結果報告と今後の対応 10. 専任教員交流会(2回目)の日程について 11. これから10年後の看護基礎教育&看護学校協議会の「あり方」について
6	10月2日(月)	当協議会事務局・オンライン	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中堅期看護教員スキルアップ研修中間発表アンケートについて 2. 厚生労働省調査研究等の進捗状況について 3. 事務担当者会について 4. 教育評価研修会について 5. 私立学校の改正について 6. 第3評価委員会の設立について 7. 全国都道府県代表者会(11/17実施)について 8. 副学校長・教務主任会(12/14実施)について 9. ICT研修会(12/15実施)について
7	11月6日(月)	当協議会事務局・オンライン	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和5年度事業、会計中間報告について 2. 第35回、第36回学会について 3. 新任期教員研修会について 4. 中堅期教員スキルアップ研修会について 5. 事務担当者会について 6. 教育評価研修会について 7. 教務主任養成講習会について

			<ul style="list-style-type: none"> 8. 厚生労働省調査研究等の進捗状況について 9. 全国都道府県代表者会について 10. 副学校長・教務主任会について 11. ICT 研修会について 12. 私立学校法の改正について 13. 広報誌について 14. 令和6年度の事業計画について 15. 日本看護学校協議会給与規程改定について 16. 次年度の看護師等養成所の管理運営等に関する実態調査の調査項目について 17. 第三者評価委員会の設立について
8	12月11日(月)	当協議会事務局・オンライン	<ul style="list-style-type: none"> 1. 令和5年度全国都道府県代表者会報告 2. 副学校長・教務主任会申し込み状況報告 3. ICT教育研修会申し込み近況報告 4. 厚生労働省調査研究等の進捗状況について 5. 看護教員インターンシップ事業の中間報告 6. 令和6年度学校長会について 7. 令和6年度中堅期看護教員研修会について
9	令和6年 1月15日(月)	当協議会事務局・オンライン	<ul style="list-style-type: none"> 1. 副学校長・教務主任会終了後アンケート結果 2. ICT教育研修会終了後アンケート結果 3. 厚生労働省調査研究等の進捗状況について 4. 第2回専任教員交流会について 5. 能登半島地震義援金支援について 6. 令和6年度中堅期看護教員研修会について 7. 令和6年度学校長会の演者について 8. 令和6年度の事業計画について 9. 要望書について・ 10. 副学校長・講演の動画配信について
10	2月5日(月)	当協議会事務局・オンライン	<ul style="list-style-type: none"> 1. 要望書について 2. 能登半島地震義援金支援について 3. 厚生労働省調査研究等の進捗状況について 4. 令和6年度事業計画について
11	3月4日(月)	当協議会事務局・オンライン	<ul style="list-style-type: none"> 1. 令和5年度中堅期看護教員研修会について 2. 第2回専任教員交流会終了アンケート結果 3. 厚生労働省調査研究等の進捗状況について 4. 教務主任養成講習会運営会議報告 5. 能登半島地震義援金報告 6. 令和5年度事業報告について 7. 令和6年度事業計画 8. 学校長会プログラムについて 9. 常任理事会に向けて

6. 委員会

1) 常設の委員会

委員会名	開催日	会場・方法	内 容
教育委員会	6月29日(木)	当協議会事務局 オンライン	1. 令和5年度 新任看護教員研修について 2. 令和5年度 中堅看護教員スキルアップ研修について 3. その他 1) ICT研修の内容 2) 新任看護教員研修の会員校への案内 3) 次回委員会の予定
	7月26日(水)		1. 令和5年度新任期看護教員研修について 2. ICT研修について
	9月12日(火)		1. 令和5年度新任期看護教員研修アンケート結果 2. ICT研修について
	令和6年 1月16日(火)		1. 令和5年度 ICT教育研修会について 2. 中堅期看護教員スキルアップ研修会について
	3月19日(火)		1. 令和6年度中堅期看護教員スキルアップ研修会申し込み状況 2. 令和5年度の総括 3. 令和6年度の計画について
事務担当者委員会	8月9日(水)	当協議会事務局 オンライン	1. 令和5年度事務担当者会について 2. 情報交換
広報委員会	4月27日(木)	当協議会事務局 オンライン	1. 日看学協ニュース第66号について 2. 日看学協ニュース第67号発行に向けての会議日程
	10月17日(火)		1. 今後の広報委員会について 1) これまでの広報委員会の活動内容 2) 今後の広報委員会の活動内容・役割 3) ホームページの運用方法 4) 年間行事・記事の運用方法 5) ホームページの使い勝手・課題
	令和6年 1月18日(木)		1. ホームページの進捗状況・今後の運営について
ブロック活動委員会	12月7日(木)	当協議会事務局 オンライン	1. 令和5年度ブロック活動中間報告 2. 日本看護学校協議会会員拡大に向けた取り組みと課題 3. ブロック活動の会計について

ブロック活動委員会	令和6年 3月7日(木)	当協議会事務局 オンライン	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和5年度まとめ 2. 令和6年度の計画 3. ブロック活動への課題 4. 入会案内
国家試験・資格試験 対策委員会	8月7日(月)	当協議会事務局 オンライン	<ol style="list-style-type: none"> 1. 10月25日に実施予定の教育研修会について 2. 国家試験・資格試験対策委員会について
	10月18日(水)		<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育評価研修会について
教務主任養成講習会 運営委員会	10月19日(木)	当協議会事務局 オンライン	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和5年度実施報告(中間)について 2. 令和6年度の予定について 3. 令和5年度修了式について
	令和6年 2月21日(水)		<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和5年度実施報告 2. 令和5年度修了認定について 3. 令和6年度受講者選考について 4. 令和5年度修了式について
政策委員会	4月10日(月)	当協議会事務局 オンライン	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予算要望書提出後の今後の予定・計画について 2. 学校長会に向けての準備について 3. 学習会の具体的内容について (①ICT導入の意義②ハード面確認のハウツー③情報リテラシー) 4. その他 <ol style="list-style-type: none"> 1) 2年課程のあり方 2) 厚生労働省のICT環境の視察について
	5月11日(木)		<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護課との話し合いの結果報告 2. DX環境調査のすすめ方 3. 学校長会に向けての準備について 4. 学習会提案について 5. その他 <ol style="list-style-type: none"> 1) 今年度の協議会の事業案内について 2) 次回の会議予定
	6月8日(木)		<ol style="list-style-type: none"> 1. 政策委員会新メンバー紹介 2. 学校長会アンケート内容報告(DX関連)(中間報告) 3. 看護問題小委員会の内容検討 4. その他 <ol style="list-style-type: none"> 1) 今後の会議予定

政策委員会	7月6日(木)	当協議会事務局 オンライン	1. 自民党看護小委員会への要望書について
			2. その他 1) ICT研修について 2) DX 特対事業について
	9月7日(木)		1. 令和7年度の予算に向けた要望書について 1) 看護教員の報酬アップ施策 2) 准看護師のこれから 3) 閉鎖校を減らすための案 4) 看護教員の定着について
	10月16日(月)		1. DX化推進に向けての協議会の立ち位置 2. 令和7年度に向けた予算要望
	11月13日(月)		1. 令和7年度に向けた予算要望
	12月5日(火)		1. 令和7年度に向けた予算要望
	令和6年 1月9日(火)		1. 令和7年度に向けた予算要望

2) 特別委員会

委員会名	開催日	会場・方法	内 容
教務主任養成講習会 eラーニング教材開発に関する委員会	4月11日(火)	当協議会事務局 オンライン	1. 令和5年度eラーニング教材開発科目について 2. 講師の選定について 3. 業者の選定・決定 4. 予算計上 5. 今後のスケジュール
研究倫理審査委員会	9月6日(水)	当協議会事務局 オンライン	1. 令和5年度 厚生労働省看護職員確保対策特別事業 「看護師等養成所におけるハラスメント対応事例収集事業」審査 1) 審査区分 2) 審査の実際 2. 令和5年度 厚生労働行政推進調査事業 「看護教育の継続教育に対するニーズ把握のための研究」審査 1) 審査区分 2) 審査の実際 3. その他 1) 利益相反について

委員会名	開催日	会場・方法	内 容
コンプライアンス委員会	3月14日(木)	当協議会事務局 オンライン	1. 看護教員の継続教育に対するニーズ把握のための研究に関する支出
厚生労働行政推進調査事業「看護教員の継続教育に対するニーズ把握のための研究」	5月26日(金)	オンライン (各研究代表者)	1. 特別研究事業の概要について 2. 特別研究事業の進め方について 3. 特別研究事業を進めるにあたっての共通理解・確認事項 4. 今後の具体的な進め方について
	6月23日(金)	オンライン (各研究代表者)	A班、B班、C班 各進め方の説明
	6月30日(金)	オンライン 各班全体会	1. 全体会 2. 各班ミーティング 3. 各班での今後の方向性や役割分担 4. 調査にあたって、今後の課題と確認事項
	7月10日(月)	オンライン (各研究代表者)	A班、B班、C班 各現状報告
	7月12日(水)	オンライン B班、C班	B班 1. 調査項目についての説明 2. 調査項目について (B班調査項目) 3. 調査項目についてのご意見 4. その他 C班 1. 進捗状況報告 2. 資料データ収集について 3. 担当役割について 4. 今後の検討について 今後の方向性について
	7月14日(金)	オンライン (各研究代表者)	1. 特別研究事業の大目的 2. 今後の流れについて
	7月19日(水)	オンライン A班	1. 特對事業の予算 2. 各班の進捗状況と今後の進め方
	7月21日(金)	オンライン (各研究代表者)	A班、B班、C班 各現状報告
	7月28日(金)	オンライン 各班全体会	A班、B班、C班 各現状報告
	8月29日(火)	オンライン (各研究代表者)	A班、B班、C班 各現状報告

	9月22日(金)	オンライン (各研究代表者)	A班、B班、C班 各現状報告
	10月21日(土)	オンライン C班	現状報告と今後の進め方について
	10月24日(火)	オンライン (各研究代表者)	A班、B班、C班 各現状報告
	11月22日(水)	オンライン (各研究代表者)	A班、B班、C班 各現状報告
	12月20日(水)	オンライン (各研究代表者)	A班、B班、C班 各現状報告
	令和6年 1月24日(水)	オンライン (各研究代表者)	A班、B班、C班 各現状報告
	2月6日(火)	オンライン (各研究代表者)	A班、B班、C班 各現状報告
	3月4日(月)	オンライン (各研究代表者)	A班、B班、C班 各現状報告
令和5年度厚生労働省 看護職員確保対策特別 事業「看護師等養成所 におけるハラスメント 対応事例収集事業」	6月14日(水)	当協議会事務局 オンライン	看護師等養成所におけるハラスメント 対応事例収集事業について
	7月31日(月)	〃	前回の会議内容を踏まえた検討
	8月22日(火)	〃	第2回会議を受けて今後の方向性の確認
	11月20日(月)	厚生労働省会議室	看護師等養成所におけるハラスメント 対応事例についての検討
	令和6年 2月1日(木)	当協議会事務局 オンライン	看護師等養成所におけるハラスメント 対応事例集(案)の検討

委員会名	開催日	会場・方法	内 容
令和5年度厚生労働省 看護職員確保対策特別 事業「看護師等養成所 における DX 促進向け た実態調査」	6月26日(月)	当協議会事務局 オンライン	1. 令和5年度看護師養成所における DX 促進に向けた実態調査について 2. 「DX時代に対応する教育機器等の整備に向けた調査」の報告事業 3. DX推進プロセス 4. 現状の確認 5. 調査について
	7月12日(水)		1. 看護学校DX化推進現状調査内容 2. これからの進め方について 3. その他 1)DX促進に向けた実態調査の目的の確認 2)一般調査票の調査範囲について
	7月20日(木) 臨時		1. 看護DX推進現状調査内容の検討 2. 配布及び回収時期 3. 配布校の確認 4. 予算の検討確認 5. 今後のスケジュール確認 6. その他
	9月7日(木)		1. DX促進に向けた実態調査集計結果概要 2. ヒアリング調査対象校の選出 3. ヒアリング調査案
	9月15日(金)		1. 調査結果概要 2. ヒアリング調査の実施について 3. その他 1)今後の進め方 2)令和6年度看護関係予算概算要求
	10月6日(金)		1. ヒアリング調査の実施について 2. 調査項目の検討
	11月1日(水)		1. 1次・2次調査結果について 2. ヒアリング調査について
	11月8日(水)		1. 採点方法について 2. ヒアリング対象校の選定
	11月24日(金)		1. ヒアリング対象校 2. ヒアリング内容 3. 今後の進め方

7. 関係省庁への対応、関係団体との連携・協働

- 1) 厚生労働省主催：医道審議会（保健師助産師看護師分科会看護倫理部会）委員（会長）
- 2) 厚生労働省医制局看護課主催：看護教員等養成支援事業（通信制教育） 外部評価委員長（会長）
- 3) 厚生労働省医制局看護課主催：看護師等確保基本指針検討部会（会長）
- 4) 一般社団法人日本臨床工学技士教育施設協議会 理事（会長）
- 5) 特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構 委員（会長）
- 6) 公益社団法人日本医師会主催：医療関係者検討委員会 委員（会長）
- 7) 自民党主催：看護問題小委員会（会長）
- 8) 日本准看護師センター：准看護師試験委員（会長）
- 9) 日本看護学教育学会：「災害対策委員会」（常任理事）

8. 要望・陳情活動

・要望書

1. 自民党看護問題小委員会 委員長 田村 憲久様 令和5年8月18日
 - 1) 地域医療存続の観点から、看護師養成課程の多様性維持及び多職種連携教育事業推進の要望
 - 2) 看護師等養成所DX推進支援総合事業推進の要望
 - 3) 看護教員と看護職員の人事交流事業推進の要望
 - 4) 実習施設と看護学生のマッチングシステム導入等の要望
 - 5) 新人看護師の離職予防にむけた予算処置への要望
2. 文部科学省高等教育局 局長宛（令和6年1月25日提出）
 - ・高等教育の修学支援制度の機関要件のうち、コロナ禍により収支差額が悪化した医療機関等への緊急措置の実施及び医療機関の特性に応じた運用の改善について（要望）
3. 厚生労働省医政局 局長宛（令和6年1月25日提出）
 - ・看護師等養成所DX推進支援総合事業推進の要望
 - 1) 看護教員個々人のDX対応能力向上に向けた研修費用等の補助
 - 2) 看護師等養成所のDX推進を支援する事業（文部科学省のGIGAスクール運営支援センター事業に相応する内容）の創設

9. 調査活動

1. 看護師養成所の管理・運営に関する実態調査 令和5年4月実施
2. 令和5・6年度厚生労働行政推進調査事業「看護教員の継続教育に対するニーズ把握のための研究」調査
3. 令和5年度厚生労働省看護職員確保対策特別事業「看護師等養成所におけるハラスメント対応事例収集事業」調査
4. 令和5年度厚生労働省看護職員確保対策特別事業「看護師等養成所におけるDX促進に向けた実態調査」

10. 部会

- 1) 統合カリキュラム教育実施施設部会（担当校：玉野総合医療専門学校）

開催日	令和5年8月7日（月）
会場	オンライン
内容	1. 講演「発達障害傾向のある学生の理解と支援」 講師：順天堂大学保健看護学部 教授 北川 明 氏
	2. グループワーク テーマ「地域・在宅看護論と公衆衛生看護学のすみ分けと統合について」

- 2) 准看護師養成教育実施施設部会 (担当校：郡山看護専門学校)
- 開催日 令和5年9月16日(土)
- 会場 郡山市医療介護病院 大会議室
- 内容 講演テーマ「地域に根ざす人材育成」
講師 福島学院大学 理事長・学長 桜田 葉子 氏

11. 広報活動

- 1) 日看学協ニュース 紙面からホームページ掲載へ変更
第65号は令和5年8月に発行済み、その後は会議終了後に順次ホームページ項目に報告を掲載
- 2) 一般社団法人日本看護学校協議会雑誌
- 会報特集号
- ・令和元年～令和5年度をホームページに掲載予定→未掲載
- 学会特集号
- ・第32回～第35回内容をホームページに掲載予定→未掲載

12. 会員（正会員・特別会員・賛助会員）について

正会員 448 校（入会校 6 校、退会 9 校）、特別会員 3 名、賛助会員 24 社

第2号議案

令和5年度会計決算及び監査報告

貸借対照表

令和6年3月31日現在

一般社団法人日本看護学校協議会

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	125,481	164,435	△ 38,954
預金	43,102,626	43,704,908	△ 602,282
未収金	21,980,000	15,617,000	6,363,000
貯蔵品	9,327	10,957	△ 1,630
前払費用	386,090	120,000	266,090
仮払金	1,108,355	1,240,686	△ 132,331
流動資産合計	66,711,879	60,857,986	5,853,893
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
什器備品	306,040	475,819	△ 169,779
基本財産合計	306,040	475,819	△ 169,779
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	1,800,282	1,400,270	400,012
特定資産合計	1,800,282	1,400,270	400,012
(3) その他固定資産			
敷金	2,082,500	2,082,500	0
その他固定資産合計	2,082,500	2,082,500	0
固定資産合計	4,188,822	3,958,589	230,233
資産合計	70,900,701	64,816,575	6,084,126
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払費用	4,859,630	1,540,000	3,319,630
前受金	1,295,000	0	1,295,000
預り金	302,274	784,182	△ 481,908
流動負債合計	6,456,904	2,324,182	4,132,722
2. 固定負債			
退職給与引当金	1,800,000	1,400,000	400,000
固定負債合計	1,800,000	1,400,000	400,000
負債合計	8,256,904	3,724,182	4,532,722
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産	62,643,797	61,092,393	1,551,404
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(1,800,000)	(1,400,000)	(400,000)
正味財産合計	62,643,797	61,092,393	1,551,404
負債及び正味財産合計	70,900,701	64,816,575	6,084,126

正味財産増減計算書

自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日

一般社団法人日本看護学校協議会

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 受取会費			
受取正会員費	22,400,000	22,600,000	△ 200,000
受取特別会員費	5,000	30,000	△ 25,000
受取賛助会員費	1,100,000	1,150,000	△ 50,000
② 事業収益			
研修会等参加負担金収入	13,436,181	7,251,705	6,184,476
傷害保険集金事務費収入	2,000,000	1,000,000	1,000,000
広告費収入	357,000	225,000	132,000
共同事業費	1,188,000	1,188,000	0
専任教員養成提携事業費	1,352,000	1,548,000	△ 196,000
受講料収入	12,890,000	10,140,000	2,750,000
③ 受取補助金等			
補助金 教務主任養成講習会事業委託金	10,980,000	8,617,000	2,363,000
補助金 厚生労働省委託事業	16,112,000	7,000,000	9,112,000
④ 義援金収入	3,287,028	1,405,917	1,881,111
⑤ 雑収益			
受取利息	12	16	△ 4
雑収益	647,924	492,199	155,725
経常収益計	85,755,145	62,647,837	23,107,308
(2) 経常費用			
① 事業費			
人件費	3,301,113	3,482,000	△ 180,887
講師等謝金	9,846,710	10,383,228	△ 536,518
旅費交通費等	7,186,765	6,249,175	937,590
通信運搬費	872,698	680,023	192,675
賃借料	3,100,256	1,889,200	1,211,056
備品消耗器材費	961,350	160,762	800,588
印刷製本費	1,086,655	3,928,088	△ 2,841,433
研究助成費	263,840	486,273	△ 222,433
会議費	552,677	390,377	162,300
雑誌等出版費	0	419,881	△ 419,881
委託料	20,085,157	4,312,855	15,772,302
義援金支出	3,285,048	1,250,000	2,035,048
学会助成費	2,000,000	2,000,000	0
部会助成費	285,000	300,000	△ 15,000
雑費	0	0	0
事業費計	52,827,269	35,931,862	16,895,407
② 管理費			
人件費	14,380,732	10,325,853	4,054,879
退職給付費用	400,000	300,000	100,000
旅費交通費	2,829,350	759,845	2,069,505
通信運搬費	804,009	805,081	△ 1,072
地代家賃・賃借料	8,000,906	7,802,790	198,116
水道光熱費	407,619	443,687	△ 36,068
備品消耗器材費	434,039	330,435	103,604
印刷製本費	219,900	489,288	△ 269,388
会議費	124,925	104,154	20,771
支払手数料	2,711,001	1,993,200	717,801
租税公課	613,100	1,261,600	△ 648,500
雑費	450,891	161,583	289,308
予備費	0	0	0
管理費計	31,376,472	24,777,516	6,598,956
経常費用計	84,203,741	60,709,378	23,494,363
当期経常増減額	1,551,404	1,938,459	△ 387,055
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
特定預金取崩	0	600,000	△ 600,000
(2) 経常外費用			
退職金支出	0	600,000	△ 600,000
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	1,551,404	1,938,459	△ 387,055
一般正味財産期首残高	61,092,393	59,153,934	1,938,459
一般正味財産期末残高	62,643,797	61,092,393	1,551,404
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	62,643,797	61,092,393	1,551,404

財産目録

令和6年3月31日現在

(単位:円)

資産の部

1. 一般会計		
現金出納帳(現金)	125,481	
三井住友銀行普通預金	11,395,382	
三井住友銀行普通預金 教務口	31,691,416	
三菱UFJ銀行普通預金 研究調査口	15,828	
三井住友銀行普通預金 義援金口	0	43,228,107
2. 特定預金		
三井住友銀行普通預金	1,800,282	1,800,282
3. 未収金		
補助金/令和5年度 看護職員確保対策特別事業/ DX促進に向けた実態調査	7,000,000	
補助金/令和5年度 看護職員確保対策特別事業/ハラスメント対応事例事業	2,000,000	
補助金/令和5年度 看護教員教務主任養成講習会事業	10,980,000	
傷害保険集金事務費 ※令和6年4月1日入金	2,000,000	21,980,000
4. 前払費用		
従業員通勤手当	386,090	386,090
5. 仮払金		
第36回 学会特別会計分	1,000,000	
ブロック活動費/未精算分	108,355	1,108,355
6. 貯蔵品		
切手	9,327	9,327
7. 什器備品		
プロジェクター	33,928	
LAN設備	272,112	306,040
8. 敷金		
事務所敷金	2,082,500	2,082,500
資産の部 計		<u>70,900,701</u>

負債の部

1. 未払費用		
DX実態調査集計・報告書作成業務費用	4,796,660	
その他	62,970	4,859,630
2. 前受金		
中堅期看護教員スキルアップ研修会参加費(令和6年度実施予定)	1,295,000	1,295,000
3. 預り金		
源泉所得税	174,264	
社会保険料	128,010	302,274
4. 退職給与引当金		
退職給与引当金	1,800,000	1,800,000
負債の部 計		<u>8,256,904</u>
正味財産合計 (資産の部－負債の部)		<u>62,643,797</u>

令和5年度 総括表

自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日

(単位:円)

科 目	本年度予算額(A)	本年度実績額(B)	差引増減△額(A-B)
収入の部			
1. 会費収入	23,465,000	23,505,000	△ 40,000
2. 事業収入	59,651,000	58,315,181	1,335,819
3. 義援金収入	0	3,287,028	△ 3,287,028
4. 雑収入	100,000	647,936	△ 547,936
収入合計	83,216,000	85,755,145	△ 2,539,145
支出の部			
1. 管理費	26,608,000	29,912,481	△ 3,304,481
2. 事業費	45,000,000	47,257,221	△ 2,257,221
3. 義援金支出	0	3,285,048	△ 3,285,048
4. 学会助成費	2,000,000	2,000,000	0
5. 部会助成費	285,000	285,000	0
6. 租税公課	600,000	613,100	△ 13,100
7. 特定預金支出	400,000	400,000	0
8. 雑費	200,000	450,891	△ 250,891
支出合計	75,093,000	84,203,741	△ 9,110,741
収支差額	8,123,000	1,551,404	6,571,596
前年度繰越金	59,972,393	59,972,393	
次年度繰越金	68,095,393	61,523,797	

令和5年度一般会計

自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日

(単位:円)

科 目	本年度予算額(A)	本年度実績額(B)	差引増減△額(A-B)	備 考
収入の部				
1. 会費収入	23,465,000	23,505,000	△ 40,000	
1) 正会員費	22,250,000	22,400,000	△ 150,000	予算: 445校 実績: 448校
2) 特別会員費	15,000	5,000	10,000	予算: 3名 実績: 1名
3) 賛助会員費	1,200,000	1,100,000	100,000	予算: 24社 実績: 22社
2. 事業収入	59,651,000	58,315,181	1,335,819	
1) 研修会等参加負担金	23,351,000	26,326,181	△ 2,975,181	実績: 研修会等参加費13,436,181円 実績: 教務主任養成講習会受講料12,890,000円
2) 傷害保険集金事務費	7,000,000	2,000,000	5,000,000	
3) 広告費	300,000	357,000	△ 57,000	
4) 共同事業費	1,188,000	1,188,000	0	
5) 専任教員養成提携事業費	1,700,000	1,352,000	348,000	
6) 補助金等	26,112,000	27,092,000	△ 980,000	実績: 教務主任養成講習会10,980,000円 実績: 科学研究費7,112,000円 実績: DX促進7,000,000円 実績: ハラスメント対応2,000,000円
3. 義援金収入	0	3,287,028	△ 3,287,028	
4. 雑収入	100,000	647,936	△ 547,936	
合 計	83,216,000	85,755,145	△ 2,539,145	
支出の部				
1. 管理費	26,608,000	29,912,481	△ 3,304,481	
2. 事業費	45,000,000	47,257,221	△ 2,257,221	
3. 義援金支出	0	3,285,048	△ 3,285,048	
4. 学会助成費	2,000,000	2,000,000	0	
5. 部会助成費	285,000	285,000	0	
6. 租税公課	600,000	613,100	△ 13,100	
7. 特定預金支出	400,000	400,000	0	
8. 雑費	200,000	450,891	△ 250,891	
合 計	75,093,000	84,203,741	△ 9,110,741	
収支差額	8,123,000	1,551,404	6,571,596	
前年度繰越金	59,972,393	59,972,393		
次年度繰越金	68,095,393	61,523,797		

一般会計 支出内訳

(単位:円)

科目	本年度予算額(A)	本年度実績額(B)	差引増減△額(A-B)	備考
1. 管理費	26,608,000	29,912,481	△ 3,304,481	
人件費	14,000,000	14,380,732	△ 380,732	給与、社会保険料
旅費交通費	1,000,000	2,829,350	△ 1,829,350	通勤費、理事会・常任理事会等
通信運搬費	700,000	804,009	△ 104,009	TEL、切手他、振込手数料
地代家賃・賃借料	7,200,000	8,000,906	△ 800,906	リース代 含む
水道光熱費	600,000	407,619	192,381	
備品消耗器材費	400,000	434,039	△ 34,039	
印刷製本費	500,000	219,900	280,100	コピー、封筒
会議費	150,000	124,925	25,075	
支払手数料	2,058,000	2,711,001	△ 653,001	顧問料、ホームページ月次管理費
2. 事業費	45,000,000	47,257,221	△ 2,257,221	
人件費	5,000,000	3,301,113	1,698,887	
講師等謝金	14,000,000	9,846,710	4,153,290	
旅費交通費等 ※日当含む	7,000,000	7,186,765	△ 186,765	
通信運搬費	1,000,000	872,698	127,302	
賃借料	3,000,000	3,100,256	△ 100,256	研修会会場費、教務主任養成講習会会場費(横浜・大阪)
備品消耗器材費	1,200,000	961,350	238,650	科研費備品代含む
印刷製本費	800,000	1,086,655	△ 286,655	
研究助成費	500,000	263,840	236,160	
会議費	500,000	552,677	△ 52,677	
雑誌等出版費	2,000,000	0	2,000,000	
委託費	10,000,000	20,085,157	△ 10,085,157	研修会配信料、教務主任eラーニング運営委託料
3. 義援金支出	0	3,285,048	△ 3,285,048	
4. 学会助成費	2,000,000	2,000,000	0	
5. 部会助成費	285,000	285,000	0	
6. 租税公課	600,000	613,100	△ 13,100	
7. 特定預金支出	400,000	400,000	0	
8. 雑費	200,000	450,891	△ 250,891	図書購入費、慶弔費
合計	75,093,000	84,203,741	△ 9,110,741	

令和5年度特定預金

自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日

1. 収入の部

(単位:円)

科目	本年度予算額(A)	本年度実績額(B)	差引増減△額(A-B)	備考
1. 預金額	400,000	400,000	0	
2. その他	25	12	13	預金利息
前年度繰越金	1,400,270	1,400,270		
次年度繰越金	1,800,295	1,800,282		

令和5年度 義援金 預金

自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日

科 目	本年度予算額(A)	本年度実績額(B)	差引増減△額(A-B)	備 考
収入の部				
1. 義援金収入	0	3,287,028	△ 3,287,028	
2. その他	0	0	0	預金利息等
合 計	0	3,287,028	△ 3,287,028	
支出の部				
1. 義援金支出	0	3,285,048	△ 3,285,048	
2. その他	0	1,980	△ 1,980	振込手数料
合 計	0	3,287,028	△ 3,287,028	
収支差額	0	0	0	
前年度繰越金	0	0		
次年度繰越金	0	0		

一般社団法人日本看護学校協議会
会長 水方 智子 様

監 査 報 告 書

一般社団法人日本看護学校協議会定款第 34 条の規定により、監査の結果を下記の通り報告致します。

記

監事は、理事会等の重要な会議に出席する等の方法により、また期末では帳簿閲覧等の方法により、令和 5 年度の一般社団法人日本看護学校協議会の運営と事業に伴う会計について監査を実施した。

監査の結果、一般社団法人日本看護学校協議会の運営については、令和 5 年度の事業計画に沿って事業が実施されており、結果は看護基礎教育の充実と質の向上・発展に寄与する活動であると評価される。

会計については、収入、支出ともに証票が整理され、現金出納簿、預金通帳について照合等監査したところ、収支決算書に相違ないことを認める。

令和 6 年 4 月 18 日

一般社団法人日本看護学校協議会

監事 佐藤 仁作 

監事 荒川 真知子 

監事 高瀬 徹 

第3号議案 令和6年度事業計画（案）

○事業方針

令和4年度からの新中期目標を以下の通りに示す。

1. 看護職養成施設の役割の拡大を図り、地域とともにある学校づくりを推進する。
2. 看護教員の質向上、確保・定着に向け、看護教員の継続教育システムをより充実させる。
3. 当協議会の活動を広報し、組織率をあげる。
4. 会員校のニーズを把握しつつ、これからの社会が求める看護職のあり方について看護基礎教育を担う団体として提言を行う。

令和6年度重点事業方針（案）を以下の通り提案する。

1. 看護職養成施設の役割の拡大を図り、地域とともにある学校づくりの定着を支援する。
令和4年（看護師2年課程は令和5年）入学生から導入された第5次指定規則改定により、「地域・在宅看護論」が新設され臨地実習の場も緩和された。地域とともにある学校づくりの定着を支援するために、各学校の特色ある取り組みを発表できる仕組みを作ることで、看護師等養成所全体のモチベーションアップをはかる。とともに、学校自己評価・自己点検を発展させた形で地域毎の「学校間ピアレビュー」を継続する。
2. 看護教員の確保・定着・質向上に向け、看護教員の継続教育のシステムをより充実させる。
看護教員の継続教育システムをより充実させるために、令和5年度から開始した「中堅教員のための講習会」を継続実施する。これにより、Step1：専任教員養成講習会（環太平洋大学との連携）、Step2 新任期教員対象「授業づくり講習会（仮）」、Step3：中堅期教員対象「中堅期教員スキルアップ研修会」、Step4：熟達期教員対象「教務主任養成講習会」と、看護教員がラダーに沿ってステップアップ出来るしくみを充実させる。さらに、看護職員が看護学校で看護基礎教育を体験出来る「看護教員インターンシップ（1日看護教員体験）により看護教員の魅力を伝え、看護教員確保につなげる。
3. 当協議会の活動を広報し、組織率をあげる。
令和5年度の会員は448校であり、組織率50%には届いていない。18歳人口の減少に伴い今後も看護師等養成所数が減少する可能性がある。会員校のニーズに応じた研修会や講習会等を実施するとともに、更新したホームページやリーフレットなどを積極的に活用し、ブロック活動を中心として非会員校にも加入を呼びかける。また、学校長会・新任期教員対象研修会などには非会員校も参加可能とし入会につなげる。
4. 会員校のニーズを把握しつつ、これからの社会が求める看護職のあり方について、看護基礎教育を担う団体として提言を行う。
研修会や情報交換会等で会員校からのニーズを把握し、その要望や意見を関係団体に提案する。また、厚生労働省など国の事業に協力するとともに、日本医師会・日本看護協会等とも連携して事業をすすめる中で、看護基礎教育を担う実務者の団体として、看護師等養成所の管理運営及び教育等に関する調査研究を行う。その結果を提言し公表することで看護師等養成所の発展向上に寄与する。

○ 令和6年度 具体的活動

	具体的活動
<p>1. 地域とともにある学校づくりの定着支援</p>	<p>1) 会員校のカリキュラム編成の相談に応じ必要な支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改定カリキュラム運用実施への支援 <p>2) 学校自己点検・自己評価の実施率向上を目指した支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都道府県毎の「学校間ピアレビューを推進、3年目のモデル地区として千葉県看護学校協議会に継続委託 ・第三者評価委員会設立に向けた準備の開始 <p>3) 各学校の取り組み紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私の学校自慢」を募集し、表彰式を学会で実施するとともに、その結果をホームページにも掲載。 <p>4) 研究活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第36回（一社）日本看護学校協議会学会を開催（愛知県） ・研究活動に対する助成 <p>5) 教育課程毎の課題についての検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各ブロック研修会の運営 ○部会の運営（統合カリキュラム、准看護師課程） <p>6) 学校経営・管理に関する必要な支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて情報を収集・分析し、会員校へ発信 ・相談に応じて支援
<p>2. 看護教員の確保・定着・質向上に向けた看護教員の継続教育システムの充実</p>	<p>1) 看護教員インターンシップ（1日看護教員体験事業）の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護教員に興味のある看護職を募り、近くの学校で体験出来るしくみの充実 <p>2) 環太平洋大学との提携による専任教員養成を継続支援</p> <p>3) 新任期教員対象の「授業づくり」研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が担当する単元を計画・実施（模擬授業）・評価（リフレクション）するため、夏に東京、冬に大阪で対面実施。 <p>4) 中堅期看護教員のスキルアップ研修会の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校経営に関心を持ち、自らが視野を広げて役割を理解し、組織力向上に貢献できる人材育成」を目的に、4月～2月までの間で全5日間をオンラインと対面を組み合わせながら実施 <p>5) 教務主任養成講習会の継続実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京（横浜実践看護専門学校）と大阪（夏：堺看護専門学校、冬：アンピールホテル大阪）の2会場で開催 <p>6) 専任教員の交流会を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回、経験年数や専門領域毎の仲間と交流し看護教員同士の繋がりをつくる。 <p>7) 合理的配慮やハラスメントに関する研修会の継続実施</p> <p>8) 令和5・6年度の地域医療基盤開発推進研究事業の継続実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「看護教員の継続教育に対するニーズ把握のための研究」

<p>3. 組織率の向上</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) ホームページの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・タイムリーに情報発信することで、協議会の活動を広報。 ・お知らせやご案内等、郵送からホームページ上での情報発信へ切り替える。 2) 各ブロック活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック毎の研修会での広報 ・非会員校へのアプローチを行い当協議会の組織率をあげる。 ・集約した意見・要望を全国都道府県代表者会へつなぐ 3) 研修会や講習会などの非会員校へも案内 <ul style="list-style-type: none"> ・協議会の活動実態を広く広報するために、非会員校への案内も継続。
<p>4. 看護基礎教育を担う団体としての提言</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学校長会、副学校長・教務主任会、事務担当者会を実施 2) 全国都道府県代表者会を実施 3) ブロック県代表者会議を実施 4) 関係省庁・関係団体との協力体制強化 <ul style="list-style-type: none"> ・検討会等への委員の派遣 ・関係省庁への要望・陳情活動 ・関係団体との協力体制の強化 等 5) 保健師助産師看護師国家試験について国への意見要望 6) 看護師等養成所の学校運営に関する必要な調査を適宜実施 <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年(2024年)度実施の「管理・運営に関する実態調査」に、看護教員の業務実態及び給料形態などに対する内容を追加。 7) (一社)日本看護学校協議会共済会との連携継続 <ul style="list-style-type: none"> ・教育現場のニーズを把握し、共済会の商品開発に協力する。 8) 賛助会員との連携継続 <ul style="list-style-type: none"> ・雑誌投稿、商品開発など 9) 対外的に積極的な情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・必要時、関係省庁への要望・陳情等に関するプレスリリースを、厚生労働記者会及び厚生日比谷クラブに向け発信 10) 厚生労働省の看護課へ研修生の派遣

○ 事業内容

1. 学術・教育

1) 教育研修会活動

令和6年度 学術・教育活動部会

【ねらい】

一般社団法人日本看護学校協議会の事業の中核である「看護教育の質向上に向けての継続的・計画的な活動の強化」において、具体的な実施を担う役割がある。

18歳人口の減少に伴い質・量ともに入学生確保が難しい時代に入った。加えて、令和6年度から合理的配慮が義務化される等、多様な学生に対する倫理的対応が今まで以上に求められている。これは、看護教員自身が自分の看護観や教育観を問い直し、これからの看護基礎教育のあり方を模索するチャンスにもなる。よって、「知っていればできる」という知識伝授だけではなく、「実践から学ぶ」という個々の経験を大切にすることも追加し、看護教育のダイナミクスを実感出来るようにしたい。

よって、令和6年度は、「看護教員の教育実践能力向上に向けた活動」だけではなく、「合理的配慮やハラスメント対応への活動」、「看護師養成所の業務改善に関する活動」を実施する。

なお、教育委員会だけが実施するのではなく、ブロック活動委員会、国家試験・資格試験対策委員会、ハラスメント対策委員会との協働・協力しつつ、学校長会、副学校長・教務主任会の企画・運営に関しても、会長・副会長と協議しながら委員会としての役割を担うものとする。

【具体的活動内容】

1. 年3回の教育研修会の企画・運営
 - 1) 新任期看護教員及び看護養成講習会未受講者を対象とした教育研修会
 - 2) ハラスメント対応に関する教育研修会
 - 3) 教育実践力向上及び業務改善のためのICT教育研修会
2. 中堅看護教員スキルアップ研修会の企画・運営
3. 学校長会および副学校長・教務主任会等の企画・運営

(1) 新任期看護教員研修会

開催日 ① 東京：令和6年8月12日（月・祝）・13日（火）、15日（木）・16日（金）
② 大阪：令和7年1月20日（月）・21日（火）、23日（木）・24日（金）

方法 対面

対象者 新人看護教員（教員経験3年未満）・看護教員養成講習会未受講者

内容 講演「教育の本質を考える・授業デザイン」

演習 マイクロティーチング・集団リフレクション

講師 講演 目黒 悟 氏

演習 ① 東京：目黒 悟 氏 他

② 大阪：目黒 悟 氏 他

(2) ハラスメント対応教育研修会

開催日 令和6年 日程未定

方法 オンライン

内容 講演 「ハラスメント対応に関する内容（詳細未定）」

講師 未定

(3) 看護師養成所のDX化推進教育研修会

開催日 令和6年12月
方法 オンライン
内容 DXを活用した業務改善(仮)
講師 未定

(4) 中堅期看護教員スキルアップ研修会

日程：講義及びグループワーク 令和6年4月13日(土)、4月27日(土)、4月28日(日)
自校での取り組み 令和6年5月～8月(自校での取り組み)
自校での取り組みの報告会 令和6年9月14日(土)(中間報告会)
他校でのフィールドワーク 令和6年9月～令和6年2月(1～3日間)
まとめ・グループ発表・講評 令和7年2月15日(土)(対面)

方法：オンライン：令和6年4月13日(土)、4月27日(土)、4月28日(日)、9月14日(土)
会場：令和7年2月15日(土) アルカディア市ヶ谷(私学会館)

内容：4月13日(土)

講演1：中堅教員に必要な能力・看護や医療の動向
講師1：会長 水方 智子
講演2：経験学習と人材育成
講師2：青山学院大学 経営学部経営学科 教授学部 教授 松尾 睦 氏

4月27日(土)

講演：看護学校におけるリーダーシップ
演習：学校組織でのリーダーシップ上の課題は何か 演習
講師：同志社女子大学教職員課程センター特任教授・京都教育大学大学院連合教職員実践
研究科 教授 水本 徳明 氏

4月28日(日)

講義：どのようなリーダーシップをとることが組織の活性化につながるか
演習：グループワーク・発表
講師：同志社女子大学教職員課程センター特任教授・京都教育大学大学院連合教職員実践
研究科教授 水本 徳明 氏

令和6年5月～8月

自校での取り組み：自己のリーダー行動計画実施期間

9月14日(土)

中間報告会：4月の課題を踏まえて自己の実践を報告する

令和7年2月15日(土)(対面を予定)

演習：グループ発表、まとめ講義・講評
講師：同志社女子大学教職員課程センター特任教授・京都教育大学大学院連合教職員実践
研究科教授 水本 徳明 氏

3) 専任教員交流会

第1回 令和6年8月23日(金)、第2回 令和7年2月21日(金) オンラインで開催予定

4) 研究等奨励事業 募集 令和6年9月

5) 第36回学会

開催日 令和6年8月1日(木)・2日(金)

会場 ウィンクあいち(愛知県産業労働センター)

テーマ 「終末期の命を支える看護—AI時代に看取りを考える—」

学会長 八事看護専門学校 学校長 内海 眞 氏

プログラム

(1) 演題発表 口演、示説

(2) 学会長講演 テーマ:「終末期の命から学ぶ」

講師: 八事看護専門学校 学校長 内海 眞 氏

特別講演1

講師: 厚生労働省医政局看護課 課長 習田 由美子 氏

特別講演2

テーマ: 「想いを汲んで想いを紡ぐ ACP~その人らしく生きるを支える訪問看護の現場より~」

講師: 常滑市民病院訪問看護ステーションきずな 所長 渡邊 和子 氏

特別講演3

テーマ: 「医療現場と看護科学における医療AIの果たす役割と展望」

講師: 名古屋大学 准教授 大山 慎太郎 氏

特別講演4

テーマ: 「刈谷スマートウェルネスプロジェクト~最新技術を活用した地域医療・介護・健康分野のスマート化~」

講師: 刈谷市企画財政部企画政策課

特別講演5

テーマ: 「最期まで家で笑って生きたいあなたへ ~なんとめでたいご臨終~」

講師: 小笠原内科・岐阜在宅ケアクリニック院長 日本在宅ホスピス協会 会長小笠原文雄氏

(3) シンポジウム テーマ「それぞれの立場で終末期の命を考える」

座長: 日本看護学校協議会 副会長 山田 かおる 氏

シンポジスト: ① 真野 新也 氏 <AIDSを乗り越えた人>

② 渡邊 博司 氏 <闘病中>

③ 星 由美 氏 <家族の立場> 八事病院理事長 秘書

④ 畑中めぐみ 氏 <愛知こどもホスピスプロジェクト>
独立行政法人国立病院機構 名古屋医療センター

⑤ 井手 宏 氏 愛知国際病院 理事長

(4) ランチョンセミナー

学生主体の取組み

「“生きる”を支える時間が私たちに教えてくれたこと～明日の看護へつなぐために～」

「怖くないよ。私たちが、側にいるから」

訪問看護ステーション事業 株式会社栖のき 代表取締役 篠原 宏翠 氏

株式会社栖のき 子供と家族の生活相談室ことりね 管理者 小児看護専門看護師 伊東 佳洋 氏

6) 研修会等

(1) 学校長会

開催日 令和6年5月28日(火)

会場 東京 アルカディア市ヶ谷(私学会館)

テーマ 「健全な看護学校経営をめざして」

内容 来賓挨拶・講話 厚生労働省医政局看護課 課長 習田 由美子 氏

1. 協議会からの報告

1) 令和5年度厚生労働省看護職員確保対策特別事業概要

(1) 看護師等養成所におけるハラスメント対応事例収集事業

(2) 看護師等養成所におけるDX促進に向けた実態調査

2) 令和5年度厚生労働行政推進調査事業(地域医療基盤開発推進研究事業)

(1) 看護教育の継続教育に対するニーズ把握のための研究 概要

2. 講演

テーマ 「看護師等養成所における合理的配慮について」

講師 NPO法人DPI日本会議 議長補佐 崔 栄繁 氏

3. 協議事項

・会員校からの提出議題

・協議会からの報告事項に関する質疑応答など

(2) 事務担当者会

開催日 令和6年10月9日(水)

会場 東京 アルカディア市ヶ谷(私学会館)

内容 未定

(3) 副学校長・教務主任会

開催日 令和6年12月9日(月)

会場 東京 アルカディア市ヶ谷(私学会館) オンライン併用

内容 未定

2. 「日本看護学校協議会 教務主任養成講習会」

開催期間 令和6年4月15日(月)～令和7年1月8日(水)

受講者 6期生42名 5期生47名 4期生1名

講習方法 eラーニング及び対面授業(演習)

1) eラーニング 令和6年4月15日(月)～11月24日(日)

《担当講師》

(1) 看護教育方法・評価開発 池西静江氏(鹿児島医療技術専門学校 看護学科顧問)

石束 佳子氏((専)京都中央看護保健大学校 顧問)

(2) 看護教育課程開発 高口みさき氏(公益社団法人愛知県看護協会 教育センター長)

(3) 看護学校経営論 齊藤 茂子氏(東京工科大学医療保健学部 名誉教授)

- (4) リーダー論 水本 徳明氏
(同志社女子大学教職員課程センター特任教授・
京都教育大学大学院連合教職員実践研究科教授)

2) 対面授業 (演習)

- (1) 看護教育方法・評価開発演習 令和6年7月17日(水)～7月31日(水)
(2) 看護教育課程開発演習 令和6年7月24日(水)～8月15日(木)
(3) 看護学校経営論演習 令和6年12月16日(月)～令和7年1月8日(水)
*12月25日～1月4日(休講)9日間

*対面授業の会場 東京会場 夏期・冬期：横浜実践看護専門学校
大阪会場 夏期：堺看護専門学校 冬期：アンピールホテル大阪

*リーダー論演習 (5期生、4期生が対象)

《担当講師》

- (1) 看護教育方法・評価開発演習 池西 静江氏 齊藤 裕子氏
(2) 看護教育課程開発演習 片野 裕美氏 渥美 美保氏
(3) 看護学校経営論演習 鳥井元純子氏 小笠原 幸氏
(4) リーダー論演習 鈴木留美子氏 水澤 晴代氏

*対面授業 (演習) の指導協力者

- (1) 看護教育方法・評価開発演習 2名
(2) 看護教育課程開発演習 3～4名
(3) 看護学校経営論演習 3～4名

3. ブロック活動

令和6年度ブロック活動委員会方針（案）

【ねらい】

ブロック活動委員会は、一般社団法人日本看護学校協議会(以下、本協議会)の事業方針をふまえ、全国7ブロックにおいて看護基礎教育に対するニーズや課題をもとに研修会等を積極的に企画運営し、年々、協議会の周知度の向上にも寄与している。今後益々、教育の質向上の為に本協議会の組織拡大は必須であり、そのための各ブロックの役割は重要となってくる。今後更に全国都道府県代表者会などの機会を通して、全国の看護基礎教育機関の取り組みを共有するとともに、都道府県の看護学校協議会等との連携を図るパイプ役としての役割を継続的に果たす事とする。

以上のことから、令和6年度の活動内容は次の通りとする。

【令和6年度活動方針】

1. 各ブロックの県代表者会議を通し、看護基礎教育の課題や協議会へのニーズの集約をする。
2. 各ブロックにおける活動の充実：研修会、組織率強化策

【令和6年度具体的活動】

1. について
 - 1) 確実に検討事項を抽出し、全国都道府県代表者会で協議するプロセスを図る。
2. について
 - 1) 協議会加盟校によるメリットの訴求策の構築
 - 2) 非加盟校からの研修等参加者の追跡フォロー施策の構築
 - 3) 各ブロック委員の意識付強化策の構築：加盟校目標をもとに事務局発信情報の徹底

<各ブロックの研修会等>

ブロック名	ブロック研修会		ブロック代表者会議
北海道	開催日 会場 内容	未定 計画中	未定
東北	開催日 会場 内容	1) 日程: 令和6年8月9日(金) 2) 方法: 集合研修(ハイブリッド) 3) テーマ: 学生が学びたくなるシミュレーション教育 4) 講師: 交渉中	1) 令和6年8月9日(金) 2) 方法: 対面会議 3) テーマ ・各県の取り組み報告 ・後期交流会、研修会の企画 ・会員校確保のための情報交換
		1) 日程: 令和7年2月21日(金) 2) 方法: 交流会・研修会(対面) 3) テーマ: 新カリキュラムの評価、特別講演、実践報告 私たちの学校自慢(学生発表) 4) 講師: 調整中	1) 日程: 令和6年12月中 2) 方法: オンライン会議 3) テーマ ・各県の取り組み報告 ・交流会、研修会の運営相談 ・次年度に向けた東北ブロックの目標、内容等の研修計画協議
関東甲信越	開催日 会場 内容	1) 日程: 8月23日(金) 2) 方法: 対面、リモートによるハイブリッド 3) テーマ: (仮) 多様性のある学生の能力を引き出す 関わり 4) 講師: 未定	第1回: 4月22日(月) 年4回程度開催を予定している が2回以降の月日は未定。

東海	開催日 会場 内容	1) 日程:令和6年9月14日(土) 2) 方法:オンライン メイン会場校:名張市立看護専門学校 3) テーマ:(仮)「高校におけるICT教育を理解し、看護基礎教育のICT教育に活かす視点を学ぶ」 4) 講師:愛知県ICT教育推進課	第1回:令和6年6月 第2回:令和6年7月 第3回:令和6年8月 第4回:令和6年10月 第5回:令和6年12月
近畿	開催日 会場 内容	1) 日程:令和6年10月16日(水) 2) 方法:対面 アンピールホテル大阪 3) テーマ:未定(合理的配慮について) 4) 講師:日本看護学校協議会共済会 弁護士 5) 専任教員ブロック交流会 日程:令和6年6月5日(水)	1)令和6年6月5日(水) 2)令和6年10月16日(水) 3)令和7年2月6日(木)
中国・四国	開催日 会場 内容	1) 日程:令和6年7月20日(土) 2) 方法:オンライン、対面 3) テーマ:心理的安定性に向けたかかわり方 4) 講師:川上 康則 氏 5) 情報交換会	1) 令和6年6月 2) 令和7年2月
九州・沖縄	開催日 会場 内容	1) 日程:令和6年9月14日(土) 2) 方法:対面(福岡) 3) テーマ:「臨床判断能力の評価と実践報告」 4) 講師:三浦友理子氏(聖路加国際大学大学院 准教授)	第1回 ①ブロック会議年間計画 ②令和6年度研修会 ③情報交換 第2回 ①令和6年度研修会 ②情報交換 第3回 ①令和6年度研修会 アンケート結果 ②令和7年度研修会テーマ (案) ③情報交換 第4回 ①令和6年度活動報告 ②令和7年度活動計画 ③令和7年度研修会 ④情報交換

4. 全国都道府県代表者会

開催日 令和6年11月20日(水)
会場 東京 アルカディア市ヶ谷(私学会館)
参加者 ブロック県代表者
内容 未定

5. 会議

1) 総会

開催日	令和6年5月27日(月)
会場	東京 アルカディア市ヶ谷(私学会館)
内容	第1号議案 令和5年度 事業報告 第2号議案 令和5年度 会計決算及び監査報告 第3号議案 令和6年度 事業計画(案) 第4号議案 令和6年度 会計予算(案)

※ 総会終了後、アルカディア市ヶ谷(私学会館)において懇親会を実施

2) 理事会

回数	開催日	会場・方法	備考
1	4月18日(木)	当協議会事務局・オンライン	・令和5年度事業報告、会計決算及び監査報告 ・令和6年度事業計画(案)、会計予算(案)
2	7月12日(金)	当協議会事務局・オンライン	・総会、学校長会のまとめ ・会務分担等について ・今年度の年間計画の確認
3	11月20日(水)	アルカディア市ヶ谷(私学会館)・	・令和6年度事業及び会計中間報告 ・各委員会、調査進捗状況 ・次年度の事業計画について

3) 常任理事会

回数	開催日	会場・方法	備考
1	令和7年 3月19日(水)	当協議会事務局・オンライン	・令和6年度事業・決算中間報告 ・令和7年度の事業計画(案)

4) 一般社団法人日本看護学校協議会あり方検討会（常設）

回数	開催日	会場・方法	内 容
1	5月7日（火）	当協議会事務局・オンライン	1. 中堅期看護教員スキルアップ研修会の途中報告 2. 令和6年度総会について 3. 学校長会について
	7月1日（月）		
	8月7日（水）		
	9月3日（火）		
	10月8日（火）		
	11月6日（水）		
	12月3日（火）		
	1月8日（水）		
	2月3日（月）		
	3月3日（月）		

6. 委員会

1) 常設の委員会（各委員会開催日などは未定）

委員会名	開催日	会場・方法	内 容
教育委員会			
事務担当者委員会			
広報委員会			
ブロック活動委員会			
国家試験・資格試験 対策委員会			
教務主任養成講習会 運営委員会			
政策委員会			

2) 特別委員会

委員会名	開催日	会場・方法	内 容
研究倫理審査委員会			
コンプライアンス 委員会			
厚生労働行政推進調査 事業「看護教員の継続 教育に対するニーズ 把握のための研究」	4月19日（金）	当協議会事務局	・ 研究報告書の作成
	5月10日（金）	オンライン	・ 今年度の研究計画について
	5月17日（金）	〃	・ 〃

7. 部会

- 1) 統合カリキュラム教育実施施設部会（担当校：北里大学保健衛生専門学院）
開催日 令和6年8月7日（水）
方 法 オンライン
内 容 1. 各校教育実施状況の情報交換 課題の検討
2. 講演会
テーマ：「電子媒体の導入が学習効果に与える影響と配慮すべき点」
講 師：放送大学客員准教授 倉澤 昭 氏

- 2) 准看護師養成教育実施施設部会（担当校：甲府看護専門学校）
開催日 令和6年9月14日（土）
会 場 甲府看護専門学校
内 容 未定

8. 広報活動

- 1) 日看学協ニュース
会議終了後に順次ホームページ項目に掲載予定

- 2) 一般社団法人日本看護学校協議会雑誌
会報特集号
・令和元年～令和6年度を作成 ホームページに掲載予定
学会特集号
・第32回～第36回内容をホームページに掲載予定

9. 会員（正会員・特別会員・賛助会員）について

令和6年度 総括表(案)

自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日

(単位:円)

科目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	差引増減△額(A-B)
収入の部			
1. 会費収入	23,360,000	23,465,000	△ 105,000
2. 事業収入	56,719,000	59,651,000	△ 2,932,000
3. 義援金収入	0	0	0
4. 雑収入	100,000	100,000	0
収入合計	80,179,000	83,216,000	△ 3,037,000
支出の部			
1. 管理費	31,120,000	26,608,000	4,512,000
2. 事業費	37,100,000	45,000,000	△ 7,900,000
3. 義援金支出	0	0	0
4. 学会助成費	2,000,000	2,000,000	0
5. 部会助成費	285,000	285,000	0
6. 租税公課	1,600,000	600,000	1,000,000
7. 特定預金支出	400,000	400,000	0
8. 雑費	500,000	200,000	300,000
支出合計	73,005,000	75,093,000	△ 2,088,000
収支差額	7,174,000	8,123,000	△ 949,000
前年度繰越金	61,523,797	59,972,393	1,551,404
次年度繰越金	68,697,797	68,095,393	602,404

令和6年度一般会計予算(案)

自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日

(単位:円)

科 目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	差引増減△額(A-B)	備 考
収入の部				
1. 会費収入	23,360,000	23,465,000	△ 105,000	
1) 正会員費	22,150,000	22,250,000	△ 100,000	予算:443校
2) 特別会員費	10,000	15,000	△ 5,000	予算:1名(2年分)
3) 賛助会員費	1,200,000	1,200,000	0	予算:24社
2. 事業収入	56,719,000	59,651,000	△ 2,932,000	
1) 研修会等参加負担金	23,940,000	23,351,000	589,000	研修会等参加費12,780,000円 教務主任養成講習会受講料11,160,000円
2) 傷害保険集金事務費	14,000,000	7,000,000	7,000,000	令和5年度、令和6年度分
3) 広告費	330,000	300,000	30,000	
4) 共同事業費	1,188,000	1,188,000	0	
5) 専任教員養成提携事業費	1,500,000	1,700,000	△ 200,000	
6) 補助金等	15,761,000	26,112,000	△ 10,351,000	教務主任養成講習会10,000,000円 科研費5,761,000円
3. 義援金収入	0	0	0	
4. 雑収入	100,000	100,000	0	
合 計	80,179,000	83,216,000	△ 3,037,000	
支出の部				
1. 管理費	31,120,000	26,608,000	4,512,000	
2. 事業費	37,100,000	45,000,000	△ 7,900,000	
3. 義援金支出	0	0	0	
4. 学会助成費	2,000,000	2,000,000	0	
5. 部会助成費	285,000	285,000	0	
6. 租税公課	1,600,000	600,000	1,000,000	
7. 特定預金支出	400,000	400,000	0	
8. 雑費	500,000	200,000	300,000	
合 計	73,005,000	75,093,000	△ 2,088,000	
収支差額	7,174,000	8,123,000	△ 949,000	
前年度繰越金	61,523,797	59,972,393	1,551,404	
次年度繰越金	68,697,797	68,095,393	602,404	

一般会計 支出内訳(案)

(単位:円)

科目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	差引増減△額(A-B)	備考
1. 管理費	31,120,000	26,608,000	4,512,000	
人件費	14,400,000	14,000,000	400,000	給与、社会保険料
旅費交通費	2,500,000	1,000,000	1,500,000	通勤費、理事会・常任理事会等
通信運搬費	800,000	700,000	100,000	TEL、切手他、振込手数料
地代家賃・賃借料	9,120,000	7,200,000	1,920,000	リース代 含む
水道光熱費	450,000	600,000	△ 150,000	
備品消耗器材費	450,000	400,000	50,000	
印刷製本費	250,000	500,000	△ 250,000	コピー、封筒
会議費	150,000	150,000	0	
支払手数料	3,000,000	2,058,000	942,000	顧問料
2. 事業費	37,100,000	45,000,000	△ 7,900,000	
人件費	3,300,000	5,000,000	△ 1,700,000	
講師等謝金	10,000,000	14,000,000	△ 4,000,000	
旅費交通費等 ※日当含む	6,000,000	7,000,000	△ 1,000,000	
通信運搬費	600,000	1,000,000	△ 400,000	
賃借料	3,300,000	3,000,000	300,000	研修会会場費、教務主任養成講習会会場費 (横浜・大阪)
備品消耗器材費	200,000	1,200,000	△ 1,000,000	科研費備品代含む
印刷製本費	400,000	800,000	△ 400,000	
研究助成費	300,000	500,000	△ 200,000	
会議費	500,000	500,000	0	
雑誌等出版費	500,000	2,000,000	△ 1,500,000	
委託費	12,000,000	10,000,000	2,000,000	研修会配信料、教務主任eラーニング運営委託料、事務 処理クラウド使用料
3. 義援金支出	0	0	0	
4. 学会助成費	2,000,000	2,000,000	0	
5. 部会助成費	285,000	285,000	0	
6. 租税公課	1,600,000	600,000	1,000,000	
7. 特定預金支出	400,000	400,000	0	
8. 雑費	500,000	200,000	300,000	図書購入費、慶弔費
合計	73,005,000	75,093,000	△ 2,088,000	

令和6年度特定預金（案）

自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日

1. 収入の部

（単位：円）

科 目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	差引増減△額(A-B)	備 考
1. 預金額	400,000	400,000	0	
2. その他	12	25	△ 13	預金利息
前年度繰越金	1,800,282	1,400,270		
次年度繰越金	2,200,294	1,800,295		